

小山市経済動向実態調査

(2023 年度第 1 回報告書)

2023 年 9 月 1 日

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

小山市経済動向実態調査

(2023 年度第 1 回報告書)

目次

要旨	1
1. 調査の目的	4
2. 調査対象・調査内容	4
2.1. 調査対象	4
2.2. 調査内容	7
2.3. 質問番号の変更	8
3. 調査結果	9
3.1. 全般的な小山市の景気	9
3.2. 小山市における業界の景気	15
3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問	31
4. まとめ	40
(参考資料)	42
i. 小山市景気動向アンケート調査票(2023 年度第 1 回)	42
ii. 小山市景気動向アンケート調査(2023 年度第 1 回)の回答一覧	48
iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)	74

小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	西谷 勢至子
白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	高木 孝紀
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究所運営委員	八尾 政行
白鷗大学総合研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力)白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	小笠原 伸

小山市経済動向実態調査

(2023 年度第 1 回報告書)

2023 年 9 月

白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心とした経済動向を把握するため、2002(平成 14)年度以降、小山市経済動向実態調査を実施している。2023(令和 5)年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査(6 月と 12 月)とヒアリング調査(2 月)を実施予定である。本報告書は 2023 年度小山市景気動向アンケート調査(第 1 回)の調査結果をまとめた 2023 年度小山市経済動向実態調査の第 1 回報告書である。

要旨

2023 年 6 月から 7 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(2023 年度第 1 回)」の結果をみると、2023 年上半期(1~6 月期)の小山市の全般的な景況感は、前回調査(2022 年下半期(7~12 月期)から「やや良い」の割合が大きく上昇し、「やや悪い」の割合が大きく下落したことから、好調な様子が見られた。景気動向指数(DI)でみると 54.3%と前回、前々回から大きく上昇し、2018 年下半期(7~12 月)以来 50%を上回った。今回の DI の水準は 2002 年の調査開始以来 3 番目に高い水準となった。その理由としては、「お客様や取引先の様子」、「物価の動き」、「周辺地域の様子」といったものが上位に挙げられていた。この背景には、2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症上の分類が、重症化リスクや感染力が高い 2 類感染症相当から、季節性インフルエンザなどと同じ 5 類感染症に引き下げられたことがあるだろう。

小山市の景気見通しに関して、前回の調査と比べ、「やや良くなる」の割合が大きく上昇し、「変わらない」、「やや悪くなる」の割合が大きく下落した。DI でみると 56.4%と前回、前々回から大きく上昇した。DI が 50%を上回ったのは 2022 年上半期(1~6 月)以来である。その理由としては、コロナ禍から正常化が進み、人の動きが活発になることの好影響を期待する見方がある一方で、物価上昇への懸念が多く聞かれた。

業界の小山市での売上げについての回答についてみると、前回の調査と比べ、「増加した」、「やや増加した」の割合が上昇し、「変わらない」の割合が大きく下落した。DI でみると 54.3%と横ばいであった前回、前々回から上昇し、調査開始以来最も高い水準となった。家計向け取引の場合、「販売量の動き」、「来客数の動き」が主な理由として挙げられており、企業向け取引の場合、「受注量や販売量の動き」、「取引先の様子」が主な理由として挙げられていた。

売上見通しについては、「やや増加する」の割合が大きく上昇し、「やや減少する」の割合が大きく下落した。DI でみると 55.7%と前回から上昇傾向にあり、調査開始以来 2 番目に高い水準となった。その理由として、受注状況や販売状況に改善が見られるとの意見が聞かれる一方で、先行きが不透明であることや受注見込みが少ないといった声も聞かれた。

販売価格見通しについて、「やや上昇する」の割合が大きく上昇し、「上昇する」、「やや低下する」の割合が下落した。DI でみると 61.4%と、前回から上昇し、5 期連続で 50%を超え、調査開始以来 2 番目に高い水準となった。この結果はこの数年継続している全国的な物価上昇の傾向が反映されたものであると考えられる。

雇用見通しについては、「やや不足する」の割合が大きく上昇し、「横ばい」の割合が大きく下落した。DI でみると、65.0%と、前回、前々回から上昇し、5 期連続で 50%を上回り、調査開始以来 2 番目に高い水準となった。近年の傾向からも人手不足は慢性化すると考えられ、いかに人材を確保するかが経営課題となるだろう。

資金繰りの状況に関して、前回と比べ全体的に横ばいで推移した。DI でみると、47.9%と、前回から横ばいで、3 期連続 50%を下回った。その理由は、「売上高の変化」、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」、「人件費の変化」が挙げられていた。また、前回調査から「設備資金需要の変化」、「金融政策、金利の変化」の割合が大きく上昇している点にも注意を払うべきだろう。

賃金等の状況について、前回調査と比べ、「ベースアップを実施」、「定期昇給を実施」の割合が大きく上昇し、「定期給与・ボーナス等の変更なし」の割合が下落した。回答理由を見ると、物価上昇、最低賃金の上昇、人手不足を背景に、人材を確保するために賃金を上昇させるという回答が見られた。

今回のアンケート調査では、前回調査に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関する質問と、いわゆる「2024 年問題」に関する質問を追加で行った。

まず、コロナ禍に関する質問では、コロナ以前とアンケート対象期間の状況の比較を、供給面、営業・勤務形態等、需要面に分けてたずねた。その結果をみると、先に述べた、新型コロナウイルス感染法上の分類が、5 類感染症に移行したことが影響したためか、いくつかの項目でコロナ禍前の状況に戻つつある様子が見られた。特に営業形態に関して、「コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたまま」や「コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたまま」の割合が大きく下落しており、正常化が進んでいることが見られた。一方で、「コロナの影響で変更した事について、元に戻ることが困難な事が多い」という回答からも、コロナ禍での経験が今後の経営形態に影響を残し続けることがあり得るのだろう。

「2024 年問題」とは、働き方改革関連法案により、2024 年 4 月 1 日から、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限規制が適用されることによる諸問題を指す。「2024 年問題」の認知度に関する質問で、「ある程度内容を理解している」が 68.6%と最も高い割合であった。荷主企業としての「2024 年問題」の影響を受けるのかという質問については、「配送コストが高騰する」、「荷物が運べない、配送遅延が生じる」、「集荷時間など配送スケジュールを調整する」が上位の理由だった。運送事業者として「2024 年問題」の影響をどのように受けるのかという質問については、「ドライバー等の賃金が減少する」、「荷主等との交渉を行わなくてはならない」、「長距離運航等の廃止など事業形態を変更する」、「どのような影響を受けるか検討中である」が上位の理由だった。最後に、質問 25 では、

「2024年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題をたずねた。現行のシステムを見直す取り組みがなされている一方で、物流コストの上昇や、納品の遅延、人手不足といった課題が指摘された。

1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

2. 調査対象・調査内容

2.1.調査対象

2023年6月から7月にかけて、小山市内の企業120社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、35社から回答を得た。回収率は約29.2%である。

図表 2-1 回答企業の業種別構成

業種	社数(社)	
	今回	前回
流通業(小売業)	10	9
製造業	8	5
金融・保険業	3	3
運輸業	2	3
ホテル・旅館業	1	1
飲食業	0	1
通信・放送業	1	1
不動産・住宅業	3	3
サービス業	4	3
印刷業	0	0
その他・不明	3	4
合計	35	33

(注) 前回は2022年12月調査、業種を複数選択した企業、選択肢外の業種を回答した企業はその他・不明に分類した。

前回調査(2022年12月)に比べ

- ・ 増加した業種: 流通業(小売業)、製造業、サービス業
- ・ 減少した業種: 運輸業、飲食業、その他・不明

図表 2-2 回答企業の従業者数

従業員数(人)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
1~4	6	17.1	15.2	15.8
5~9	6	17.1	12.1	13.2
10~19	6	17.1	18.2	13.2
20~29	3	8.6	6.1	10.5
30~49	2	5.7	15.2	7.9
50~99	7	20.0	18.2	15.8
100以上	5	14.3	15.2	13.2
不明	0	0.0	0.0	10.5
合計	35	99.9	100.2	100.1

(注) 前回は 2022 年 12 月調査、前々回は 2022 年 6 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(2022 年 12 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した従業者規模: 5~9 人、20~29 人
- ・ 構成比が 2%ポイント以上減少した従業者規模: 30~49 人

図表 2-3 回答企業の売上高

売上高(円)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
3,000 万未満	5	14.3	15.2	15.8
3,000 万~1 億未満	4	11.4	9.1	10.5
1 億~5 億未満	12	34.3	30.3	23.7
5 億~10 億未満	4	11.4	9.1	7.9
10 億以上	9	25.7	24.2	18.4
不明・該当なし	1	2.9	12.1	23.7
合計	35	100.0	100.0	100.0

(注) 前回は 2022 年 12 月調査、前々回は 2022 年 6 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(2022 年 12 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した年間売上高規模: 3000 万~1 億未満、1 億~5 億未満、5 億~10 億未満
- ・ 構成比が 2%ポイント以上低下した年間売上高規模: 不明・該当なし

図表 2-4 回答企業における売上割合

小山市内の 売上割合(%)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
80~100	8	22.9	33.3	21.1
60~79	8	22.9	27.3	21.1
40~59	5	14.3	9.1	10.5
20~39	5	14.3	12.1	10.5
0~19	7	20.0	18.2	26.3
不明・該当なし	2	5.7	0.0	10.5
合計	35	100.1	100.0	100.0

(注) 前回は 2022 年 12 月調査、前々回は 2022 年 6 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

小山市内の売上割合が 60%以上の企業数の合計は 16 社(45.7%)となった(前回調査: 60.6%)。

2.2. 調査内容

今回の調査内容は、質問 1 から質問 17 までは、従来の調査と同様に、景況感に関わる項目である。そのうち、質問 1 から質問 5 までは、一般的な小山市の景気の現状および先行きに関してたずね、質問 6 から質問 17 までは、回答企業自身についての現状および先行きに関してたずねている。質問 18～21 は新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の状況についてたずねた。働き方改革関連法案により、2024 年 4 月 1 日から、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限規制が適用される。この規制が適用されることによる諸問題は「2024 年問題」と呼ばれている。質問 22～25 は「2024 年問題」に関する質問事項となっている。

質問 1：小山市の景気の現状(水準)

質問 2: 質問 1 の回答理由

質問 3: 質問 2 の具体的な回答

質問 4: 2023 年下半年期(7～12 月期) の小山市の景気見通し

質問 5: 質問 4 の回答理由

質問 6: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

質問 7: 質問 6 の回答理由(家計消費向け取引)

質問 8: 質問 6 の回答理由(企業消費向け取引)

質問 9: 質問 7、8 の具体的な回答

質問 10: 業界の小山市での売上見通し

質問 11: 質問 10 の回答理由

質問 12: 2023 年下半年期(7～12 月期) の販売価格見通し

質問 13: 2023 年下半年期(7～12 月期) の雇用見通し

質問 14: 2023 年上半年期(1～6 月期) の資金繰りの状況

質問 15: 質問 14 の回答理由

質問 16: 2023 年度の賃金等の状況

質問 17: 質問 16 の回答理由

質問 18: コロナ禍の影響(供給面)

質問 19: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

質問 20: コロナ禍の影響(需要面)

質問 21: 質問 18～20 の回答理由

質問 22: 「2024 年問題」の認知度

質問 23: 「2024 年問題」の影響(荷主企業)

質問 24: 「2024 年問題」の影響(運送事業者)

質問 25: 「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題

2.3. 質問番号の変更

今回の調査から毎回の調査で行っている質問(3.1.全般的な小山市の景気、3.2.小山市における業界の景気)の番号を以下の図表 2-5 の通り変更した。この変更に伴い、「質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)」と「質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)」は、「質問 9: 質問 7、8 の具体的な内容」に統合した。この変更に合わせて、過去の調査結果のデータを記載している「(参考資料)iii.小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)」(74～87 ページ)の質問番号も変更した。

図表 2-5 質問番号の変更

変更前の質問番号 (2022 年度第 2 回調査まで)	変更後の質問番号 (2023 年度第 1 回調査から)
質問 1: 小山市の景気の現状(水準)	質問 1: 小山市の景気の現状(水準)
質問 2-1: 質問 1 の回答理由	質問 2: 質問 1 の回答理由
質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由	質問 3: 質問 2 の具体的な回答
質問 3: 次期の小山市の景気見通し	質問 4: 次期の小山市の景気見通し
質問 4: 質問 3 の回答理由	質問 5: 質問 4 の回答理由
質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)	質問 6: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)
質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)	質問 7: 質問 6 の回答理由(家計消費向け取引)
質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)	質問 8: 質問 6 の回答理由(企業消費向け取引)
質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)	質問 9: 質問 7、8 の具体的な内容
質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)	質問 10: 業界の小山市での売上見通し
質問 7: 業界の小山市での売上見通し	質問 11: 質問 10 の回答理由
質問 8: 質問 7 の回答理由	質問 12: 次期の販売価格見通し
質問 9: 次期の販売価格見通し	質問 13: 次期の雇用見通し
質問 10: 次期の雇用見通し	質問 14: 今期の資金繰りの状況
質問 11: 今期の資金繰りの状況	質問 15: 質問 14 の回答理由
質問 12: 質問 11 の回答理由	質問 16: 今年度の賃金等の状況
質問 13: 今年度の賃金等の状況	質問 17: 質問 16 の回答理由
質問 14: 質問 13 の回答理由	

3. 調査結果

3.1. 全般的な小山市の景気

質問 1 から質問 5 までは、全般的な小山市の景気についてたずねた。以下その結果を述べる。

3.1.1. 小山市の景気の現状(水準)(質問 1～3)

質問 1 では全般的な小山市の景気の現状(水準)をたずねた。2023 年上半期(1～6 月期)は「良い」0.0%、「やや良い」40.0%、「どちらともいえない」45.7%、「やや悪い」5.7%、「悪い」8.6%となった。前回と比べ「やや良い」、「どちらともいえない」の割合が上昇し、「やや悪い」の割合が下落した。前回調査(2022 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや良い」(+15.8)、「どちらともいえない」(+3.3)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「良い」(-3.0)、「やや悪い」(-18.5)

となった。DI¹で見ると 54.3%と前回(48.5%)、前々回(44.1%)から大きく上昇した。DI が 50%を上回るのは 2018 年下半期(7～12 月)以来であり、調査開始してから 3 番目に高い水準となった(図表 3-1,3-2)。

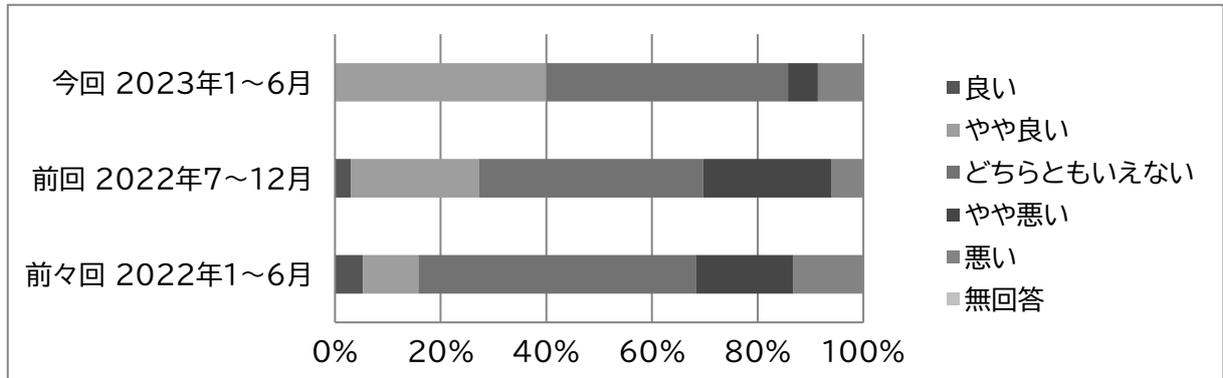
質問 1 の回答理由(質問 2)についてみると、「お客様や取引先の様子」(71.4%)、「物価の動き」(17.1%)、「周辺地域の様子」(14.3%)が上位三位までの理由だった(図表 3-3)。特に「お客様や取引先の様子」は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行のためか、高い水準を記録した。

質問 2-1 の具体的な回答内容(質問 3)では、人流が増加している点や人手不足といった景気の回復傾向がみられる一方で、原材料費の上昇と価格転嫁の問題への懸念が見られた。

¹ DI (Diffusion Index)とは、景気動向指数の一つであり、回答(%)の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 として、構成比(無回答を除く)で加重平均したものである。DI が 50%を超えると景気回復、50%を下回ると景気悪化を示唆している。

質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

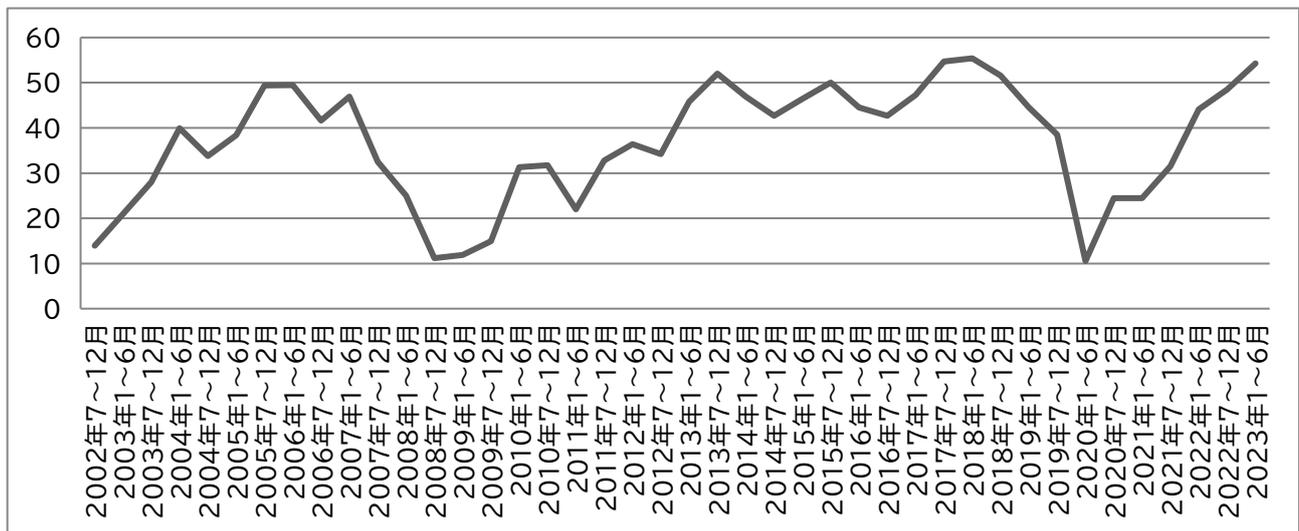
図表 3-1 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

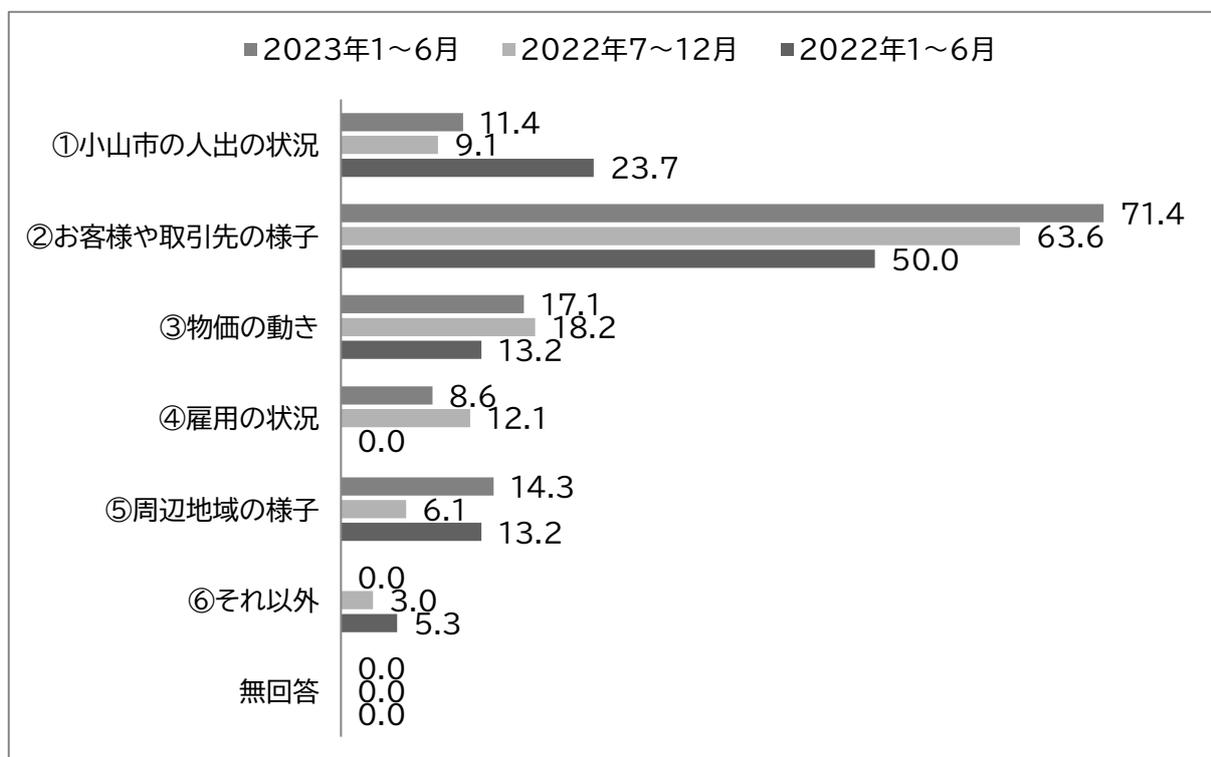
	良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回 2023年1~6月	0.0	40.0	45.7	5.7	8.6	0.0	54.3
前回 2022年7~12月	3.0	24.2	42.4	24.2	6.1	0.0	48.5
前々回 2022年1~6月	5.3	10.5	52.6	18.4	13.2	0.0	44.1

図表 3-2 DIの推移(%)



質問 2: 質問 1 の回答理由

図表 3-3 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)(%)



(%)

質問 2 質問 1	①小山市の 人出の状況	②お客様や 取引先の様子	③物価の 動き	④雇用の 状況	⑤周辺地域の 様子	⑥それ以外	⑦無回答
良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや良い	8.6	22.9	0.0	5.7	2.9	0.0	0.0
どちらとも いえない	2.9	37.1	11.4	2.9	8.6	0.0	0.0
やや悪い	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
悪い	0.0	8.6	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	11.4	71.4	17.1	8.6	14.3	0.0	0.0

質問 3: 質問 2 の具体的な回答内容

- ◆ やや良い
 - ・ 「アフターコロナとなり、with コロナよりはよくなっていると思われる。しかし、物価の上昇などから、コロナ前よりはまだまだ低いと感じる。」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「新型コロナウイルスが“5類”に移行したことにより、人の流れが活発になってきたため」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「他工場様の意見交換の場で人手不足という声が多い」(④雇用の状況)
- ◆ どちらともいえない
 - ・ 「通信費削減意識が高い(安価な他者サービスの影響か…)広告宣伝費は削減対象の上位」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「電気代や材料代の上昇で経営が厳しい、売上への転嫁ができていない」(③物価の動き)
 - ・ 「人出が多くなり、コロナ前に比べ良くはなっているものの、商品の納期が改善されず、物価も高くなり、景気はどちらともいえない状況。」(①小山市の人出の状況、②お客様や取引先の様子、③物価の動き)
- ◆ やや悪い:
 - ・ 「輸送業務や品物の受注自体が減少している。」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「原料の値上がりに対し、販売単価の引き上げが追いついていることが見受けられる。」(③物価の動き)
- ◆ 悪い:
 - ・ 「22年夏以降、客先からの受注、見積もりが減少している」(②お客様や取引先の様子、⑤周辺地域の様子)
など

3.1.2. 2023 年下半期(7～12 月期) の小山市の景気見通し(質問 4、5)

質問 4 の小山市の景気見通しに関して、2023 年下半期(7～12 月期)は 2023 年上半期(1～6 月期)と比べ、「良くなる」2.9%、「やや良くなる」42.9%、「変わらない」37.1%、「やや悪くなる」11.4%、「悪くなる」5.7%となった(図表 3-4, 3-5)。前回と比べ「やや良くなる」の割合が上昇し、「変わらない」、「やや悪くなる」の割合は下落した。前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

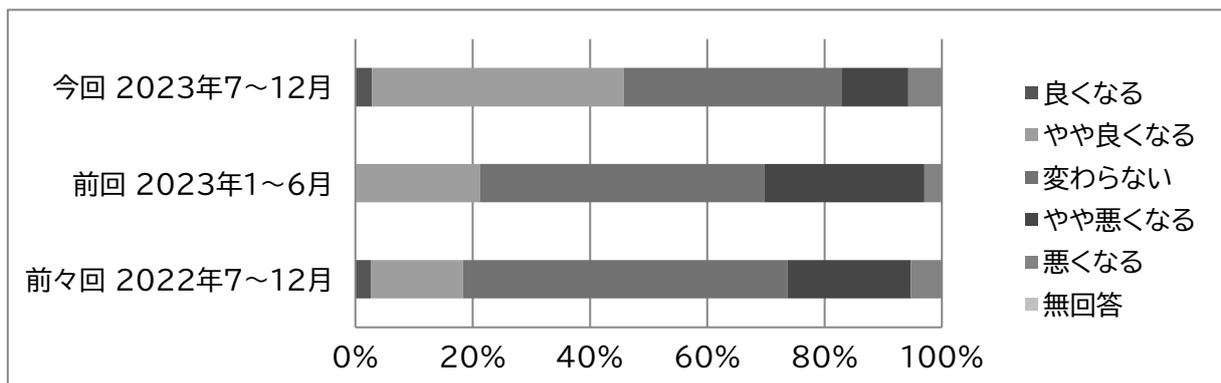
- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや良くなる」(+21.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-11.4)、「やや悪くなる」(-15.9)

となった。DI でみると 56.4%と前回(47.0%)、前々回(47.4%)から大きく上昇した。DI が 50%を上回ったのは 2022 年上半期(1～6 月)以来である。

質問 4 の回答理由(質問 5)では、コロナ禍からの回復を期待する見方がある一方で、物価高への懸念が多く見られた。

質問 4: 2023 年下半期(7～12 月期) の小山市の景気見通し

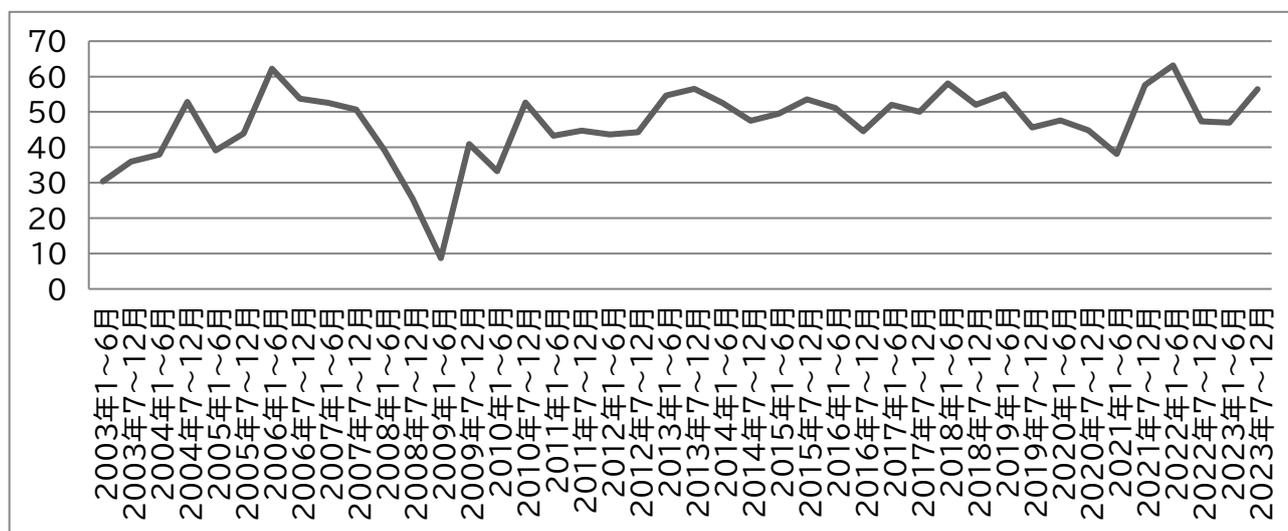
図表 3-4 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回 2023 年 7～12 月	2.9	42.9	37.1	11.4	5.7	0.0	56.4
前回 2023 年 1～6 月	0.0	21.2	48.5	27.3	3.0	0.0	47.0
前々回 2022 年 7～12 月	2.6	15.8	55.3	21.1	5.3	0.0	47.4

図表 3-5 DI の推移(%)



質問 5: 質問 4 の回答理由

- ◆ 良くなる
 - ・ 「人流が活発になり、with コロナが定着し、商品の納期が正常化されれば良くなる。」
- ◆ やや良くなる
 - ・ 「人の動きは活発になるが、一方では物価高による日常生活での節約志向も引き続き高まると思われるため、消費はメリハリ型が続くと思われる。」
 - ・ 「今後の新型コロナの感染状況に左右されると思うが「5 類」に移行して、あらゆる場面で制限が緩和されはじめたため」
- ◆ 変わらない
 - ・ 「給料が上昇してくるとは感じられないため」
 - ・ 「物価高が続いていくと考えられる。」
 - ・ 「飲食業などが売上回復する一面が感じられるが、製造業等は人手不足により売上確保等の対応が追い付いていない。」
- ◆ やや悪くなる
 - ・ 「物価や燃料の価格上昇がひびいてくる」
- ◆ 悪くなる
 - ・ 「人材不足」
 - など

3.2. 小山市における業界の景気

質問 6 から質問 14 までは、小山市における回答企業・店舗の業界景気動向をたずねた。以下その結果を述べる。

3.2.1. 業界の小山市での売上げ(質問 6～8)

業界の小山市での売上げについて、2023 上半期(1～6 月期)は「増加した」5.7%、「やや増加した」40.0%、「変わらない」25.7%、「やや減少した」22.9%、「減少した」5.7%となった(図表 3-6, 3-7)。前回と比べ「増加した」、「やや増加した」の割合が上昇し、「変わらない」の割合が下落した。前回調査(2022 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「増加した」(+5.7)、「やや増加した」(+9.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-13.7)

となった。DI でみると 54.3%と横ばいであった前回(48.5%)、前々回(48.0%)から上昇した。DI が 50%を上回るのは、2018 年 7～12 月期以来であり、調査開始以来最も高い水準となった。

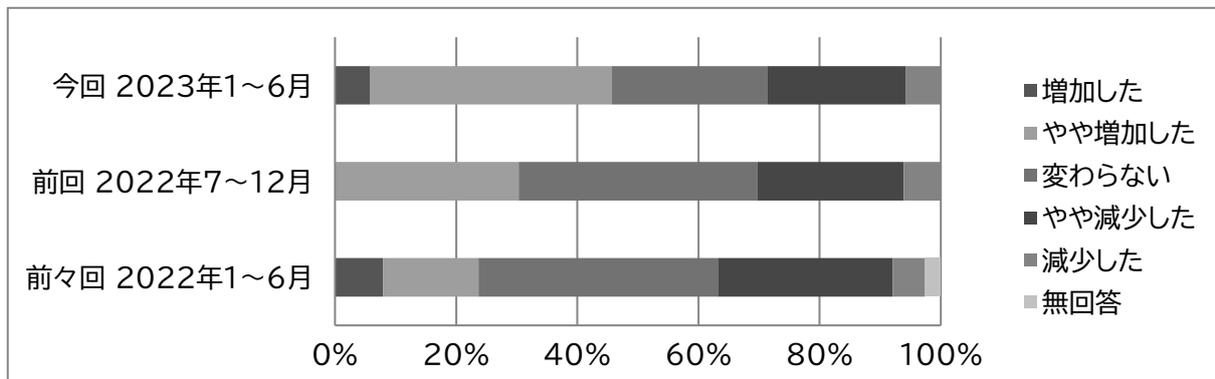
質問 6 の回答の理由(質問 7、8)についてみると、家計向け取引の場合、「家計消費向け取引(B to C)を行っていない」と「無回答」を除いて、「販売量の動き」(28.6%)、「来客数の動き」(20.0%)、「お客様の様子」(17.1%)が上位三位までの理由だった(図表 3-8)。

企業向け取引の場合、「企業向け取引(B to B)を行っていない」と「無回答」を除いて、「受注量や販売量の動き」(48.6%)、「取引先の様子」(22.9%)、「受注価格や販売価格」(11.4%)が上位三位までの理由だった(図表 3-9)。

質問 7、8 の具体的な回答内容(質問 9)ではコロナ禍から正常化に向かい活気が戻ってきたとする意見がある一方で、需要の先食いにより売上げが減少したとの意見もあった。

質問 6: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

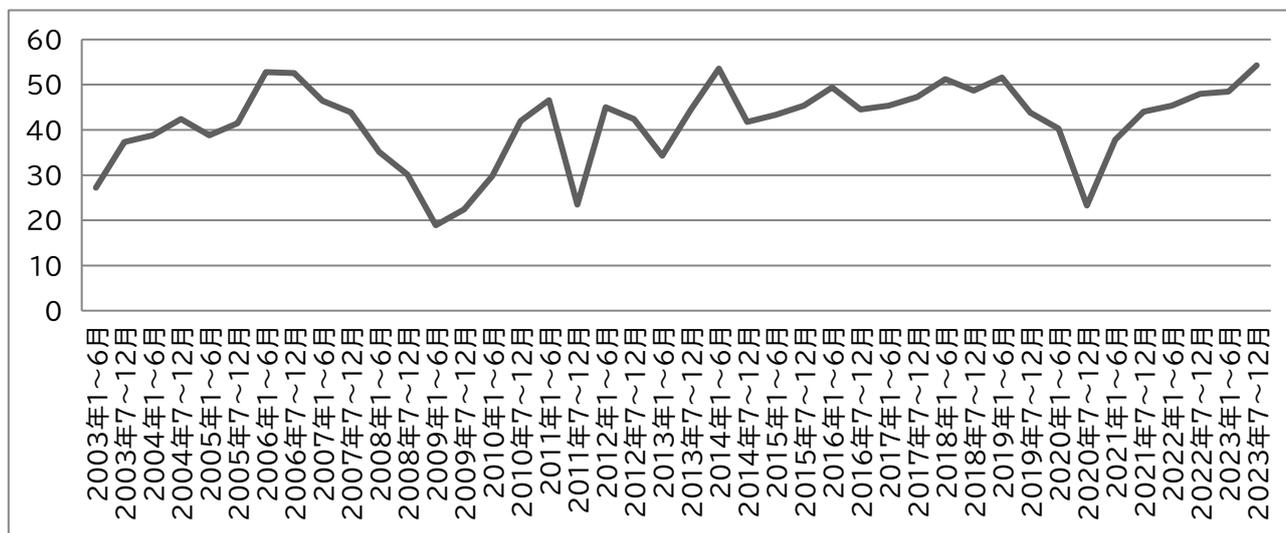
図表 3-6 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

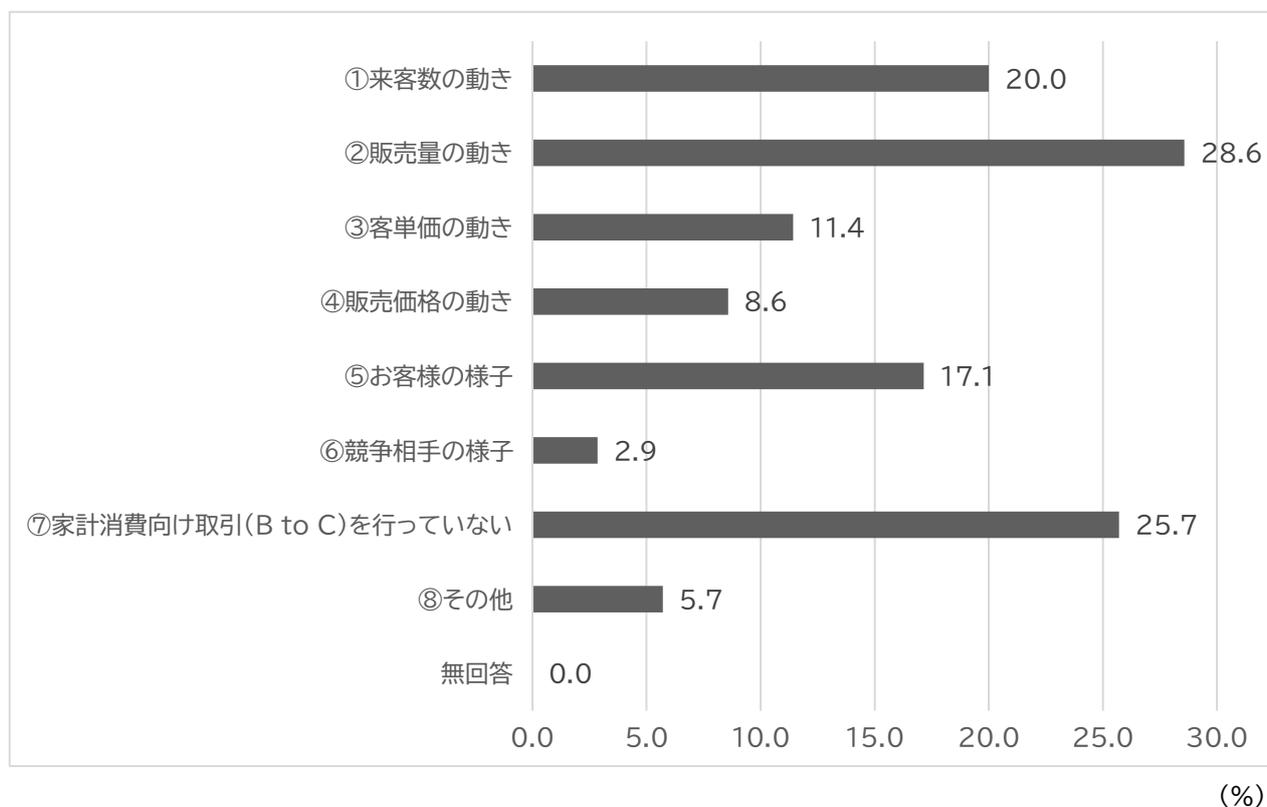
	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	DI
今回 2023年1~6月	5.7	40.0	25.7	22.9	5.7	0.0	54.3
前回 2022年7~12月	0.0	30.3	39.4	24.2	6.1	0.0	48.5
前々回 2022年1~6月	7.9	15.8	39.5	28.9	5.3	2.6	48.0

図表 3-7 DIの推移(%)



質問 7: 質問 6 の回答理由(家計消費向け取引)

図表 3-8 質問 6 と質問 7(家計消費向け取引)のクロス集計(%)

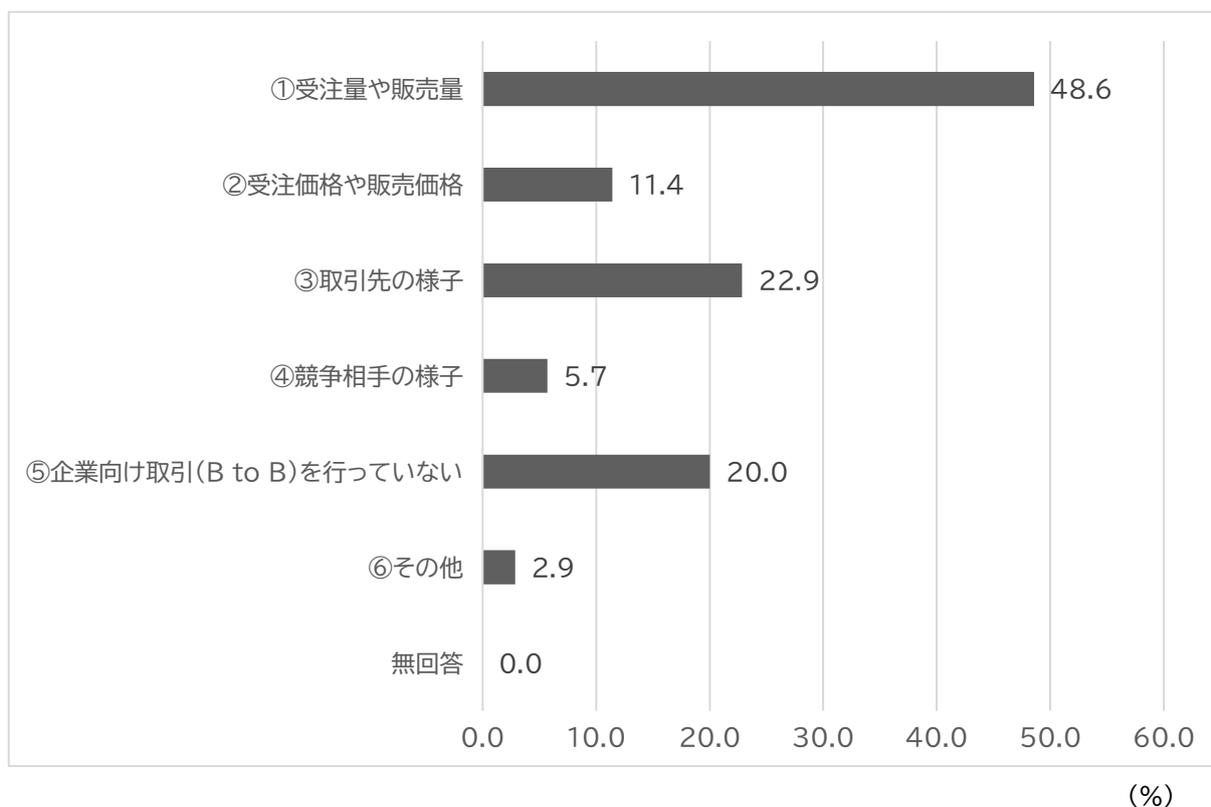


質問 7	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答
質問 6									
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0
やや増加した	8.6	14.3	8.6	5.7	0.0	0.0	8.6	2.9	0.0
変わらない	8.6	14.3	0.0	2.9	5.7	2.9	2.9	0.0	0.0
やや減少した	2.9	0.0	2.9	0.0	8.6	0.0	8.6	0.0	0.0
減少した	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	20.0	28.6	11.4	8.6	17.1	2.9	25.7	5.7	0.0

(注) 表の%は 35 社に対する比率。

質問 8: 質問 6 の回答理由(企業消費向け取引)

図表 3-9 質問 6 と質問 8(企業消費向け取引)のクロス集計(%)



質問 8	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答
質問 6							
増加した	2.9	5.7	2.9	2.9	0.0	0.0	0
やや増加した	20.0	5.7	8.6	0.0	5.7	2.9	0
変わらない	11.4	0.0	5.7	0.0	8.6	0.0	0
やや減少した	8.6	0.0	5.7	2.9	5.7	0.0	0
減少した	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
合計	48.6	11.4	22.9	5.7	20.0	2.9	0

(注) 表の%は 35 社に対する比率。

質問 9: 具体的な回答

- ◆ 増加した
 - ・ 「業界全体の商品納期が正常化へ向かえば販売量、価格の上昇、取引先の活気、競争相手の活気が戻ってくる。」(流通業(小売業))
- ◆ やや増加した
 - ・ 「ここに来て、人材投資(採用含む)を増幅させたり、販売量が大きくなってきた」(流通業(小売業))
 - ・ 「会食事に高額なメニューの注文が増加している。」(ホテル・旅館業)
 - ・ 「インボイス電帳法等による若干の増あり」(その他(ソフトウェア(情報システム)))
- ◆ 変わらない
 - ・ 「たしかにコロナ前に戻りつつあるが、この3年間で世の中が変わり、DXも含めて、変化していくように思われる。それに、いかについていけるか、お客様の動向を注視しながら、経営していかななくてはならない。」(流通業(小売業))
 - ・ 「大きな変化はまだ起きていない」(金融・保険業)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「当業界ではコロナ禍において、ユーザー様へ3密を避ける目的で機械導入の助成金を出していた為、需要の先食いをしてしまった。」(製造業)
 - ・ 「取引先からの売上に繋がる引き合いが低迷している。」(金融・保険業)
- ◆ 減少した
 - ・ 「製造業があまり積極的にモノづくりをしていない。」(運輸業)
など

3.2.2. 業界の小山市での売上見通し(質問 10、11)

業界の小山市での売上見通しに関して、2023 年下半期(7~12 月期)は 2023 年上半期(1~6 月期)と比べ、「増加する」0.0%、「やや増加する」42.9%、「変わらない」42.9%、「やや減少する」8.6%、「減少する」5.7%となった(図表 3-10, 3-11)。前回と比べ「やや増加する」の割合が上昇し、「変わらない」、「やや減少する」の割合が下落した。前回調査(2022 年 12 月)と比べ、

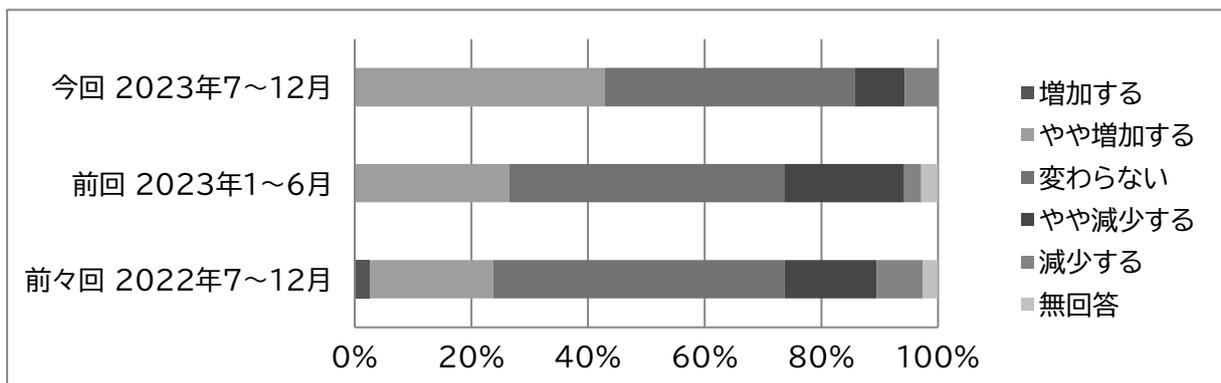
- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや増加する」(+15.6)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-5.6)、「やや減少する」(-12.6)

となった。DI でみると 55.7%と前回(50.0%)から上昇傾向にあり、調査開始以来 2 番目に高い水準となった。

質問 10 の回答の理由(質問 11)についてみると、受注状況や販売状況に改善が見られるとの意見が聞かれる一方で、先行きが不透明であることや受注見込みが少ないといった声も聞かれた。

質問 10: 業界の小山市での売上見通し

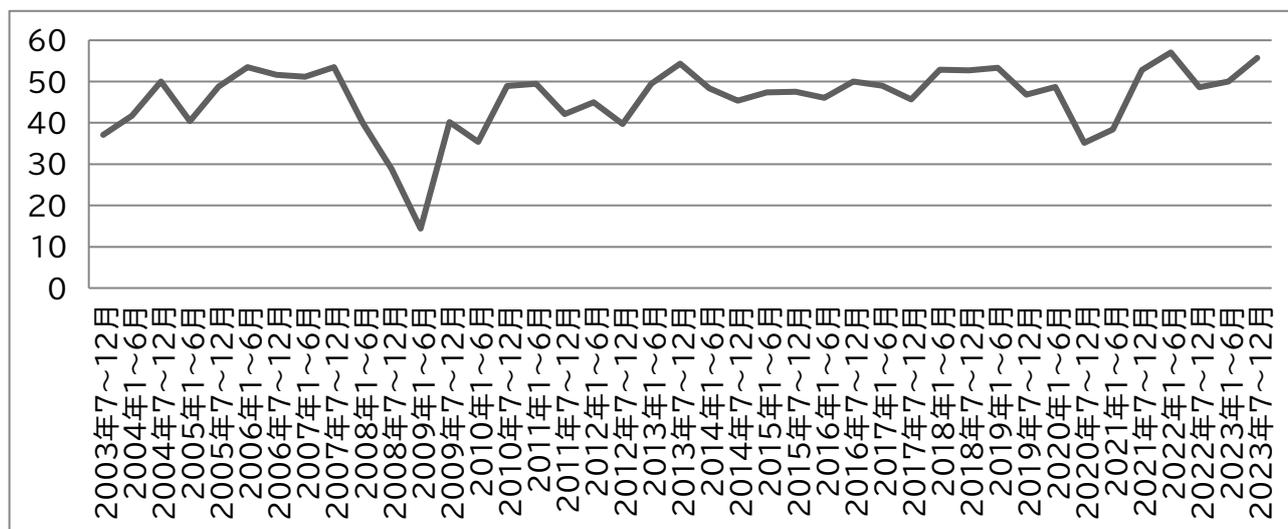
図表 3-10 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	DI
今回 2023 年 7~12 月	0.0	42.9	42.9	8.6	5.7	0.0	55.7
前回 2023 年 1~6 月	0.0	27.3	48.5	21.2	3.0	0.0	50.0
前々回 2022 年 7~12 月	2.6	21.1	50.0	15.8	7.9	2.6	48.6

図表 3-11 DIの推移(%)



質問 11: 質問 10 の回答理由

- ◆ やや増加する
 - ・ 「会食や出張の利用が増加する」(ホテル・旅館業)
 - ・ 「受注状況が良い」(製造業)
 - ・ 「競合も多くなり、情報として他社も含めるとより販売状況は改善していると思うため」(流通業(小売業))
- ◆ 変わらない
 - ・ 「お客様の動きが上下して不明のため。」(その他・不明(旅客運送業))
 - ・ 「投資意欲の動向がまだ不透明な為」(金融・保険業)
 - ・ 「高齢化等によるユーザー様数の減少の影響」(製造業)
- ◆ 減少する
 - ・ 「客先の動きがあまり活発ではない」(運輸業)
 - ・ 「受注見込みとも少ない」(製造業)
 など

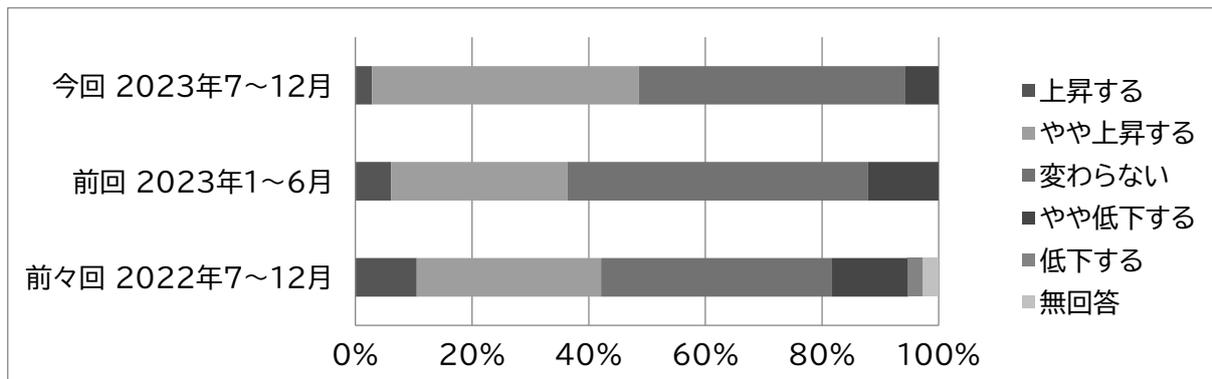
3.2.3. 2023 年下半期(7~12 月期) の販売価格見通し(質問 12)

販売価格見通しについて、2023 年下半期(7~12 月期)は 2023 年上半期(1~6 月期)と比べ、「上昇する」2.9%、「やや上昇する」45.7%、「変わらない」45.7%、「やや低下する」5.7%、「低下する」0.0%となった(図表 3-12, 3-13)。前回と比べ「やや上昇する」の割合が上昇し、「上昇する」、「変わらない」、「やや低下する」の割合が下落した。前回調査(2022 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや上昇する」(+15.4)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「上昇する」(-3.2)、「変わらない」(-5.8)、「やや低下する」(-6.4)
- となった。DI でみると 61.4%と、前回(57.6%)から上昇し、5 期連続で 50%を超え、調査開始以来 2 番目に高い水準となった。

質問 12: 2023 年下半年(7~12 月期) の販売価格見通し

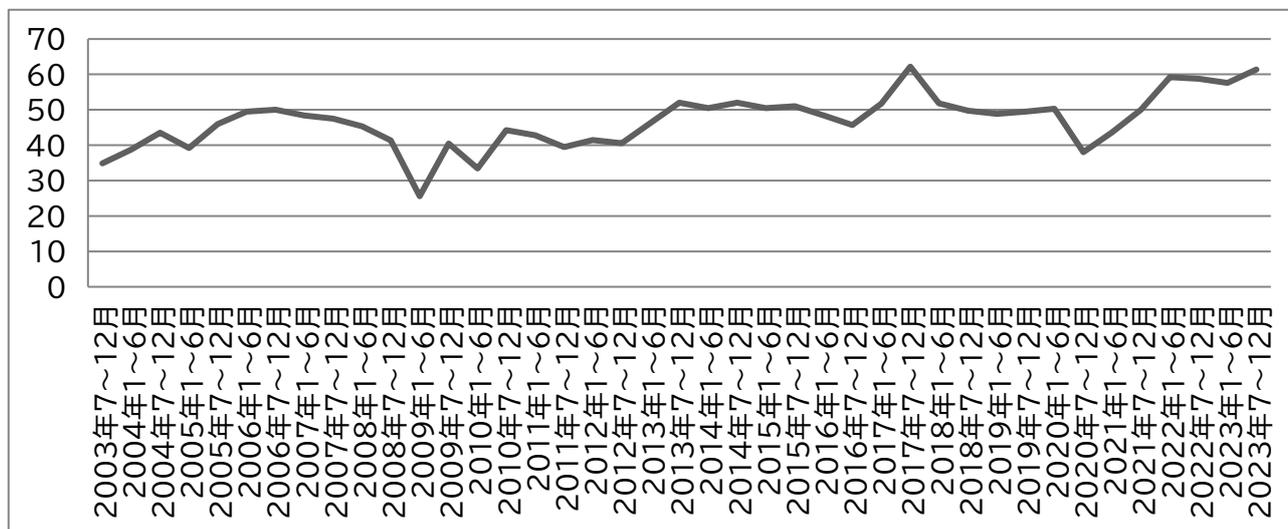
図表 3-12 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回 2023 年 7~12 月	2.9	45.7	45.7	5.7	0.0	0.0	61.4
前回 2023 年 1~6 月	6.1	30.3	51.5	12.1	0.0	0.0	57.6
前々回 2022 年 7~12 月	10.5	31.6	39.5	13.2	2.6	2.6	58.8

図表 3-13 DI の推移(%)



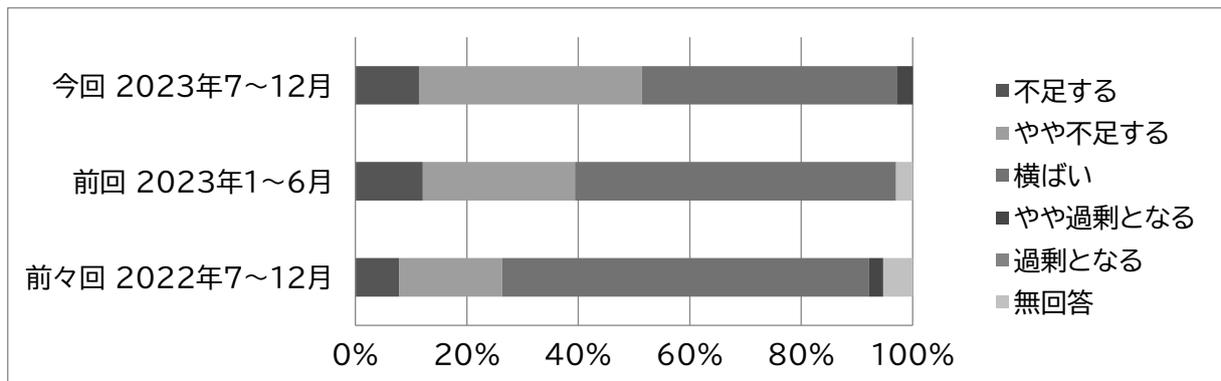
3.2.4. 2023 年下半期(7~12 月期) の雇用見通し(質問 13)

質問 13 の雇用見通しに関して、2023 下半期(7~12 月期)は 2023 上半期(1~6 月期)と比べ、「不足する」11.4%、「やや不足する」40.0%、「横ばい」45.7%、「やや過剰となる」2.9%、「過剰となる」0.0%となった(図表 3-14, 3-15)。前回と比べ「やや不足する」の割合が上昇し、「横ばい」、「無回答」の割合が下落した。前回調査(2022 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや不足する」(+12.7)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「横ばい」(-11.9)、「無回答」(-3.0)
- となった。DI でみると 65.0%と、前回(63.3%)、前々回(58.3%)から上昇傾向にあり、5 期連続で 50%を上回った。調査開始以来 2 番目に高い水準となった。

質問 13: 2023 年下半年(7~12 月期) の雇用見通し

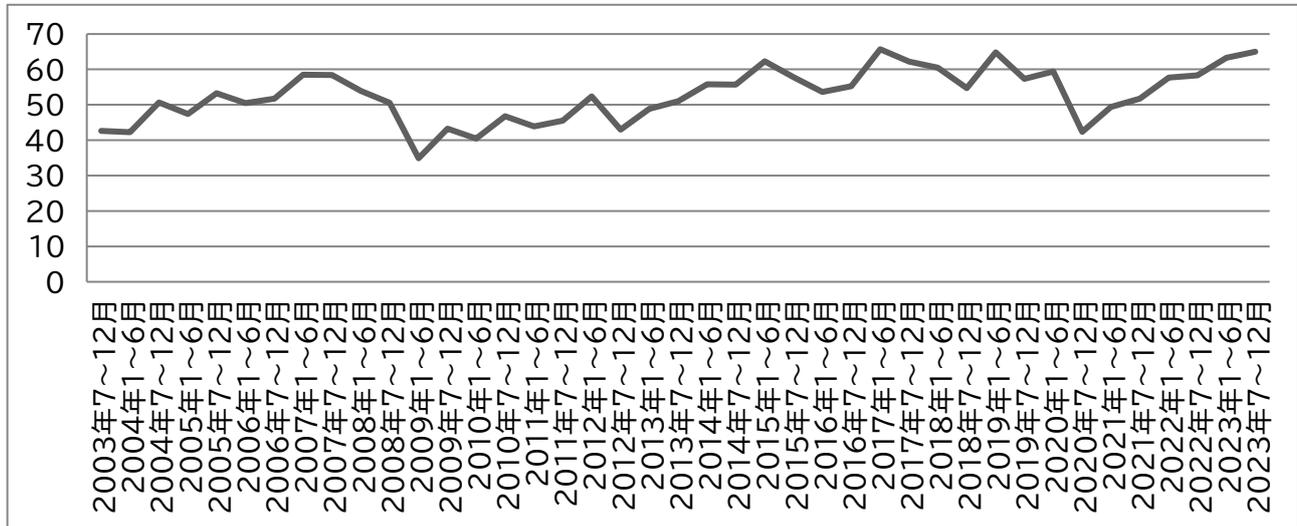
図表 3-14 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	不足する	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	DI
今回 2023年7~12月	11.4	40.0	45.7	2.9	0.0	0.0	65.0
前回 2023年1~6月	12.1	27.3	57.6	0.0	0.0	3.0	63.3
前々回 2022年7~12月	7.9	18.4	65.8	2.6	0.0	5.3	58.3

図表 3-15 DIの推移(%)



3.2.5. 2023 年上半期(1～6 月期) の資金繰りの状況(質問 14、15)

質問 11 の資金繰りの状況に関して、2023 年上半期(1～6 月期)は 2022 年下半期(7～12 月期)と比べ、「改善した」0.0%、「やや改善した」20.0%、「どちらともいえない」54.3%、「やや悪化した」22.9%、「悪化した」2.9%となった(図表 3-16, 3-17)。前回と比べ全体的に横ばいで推移した。前回調査(2022 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: なし
- ・ 3%ポイント以上減少: なし

となった。DI でみると 47.9%と、前回(47.7%)から横ばいで、3 期連続 50%を下回った。

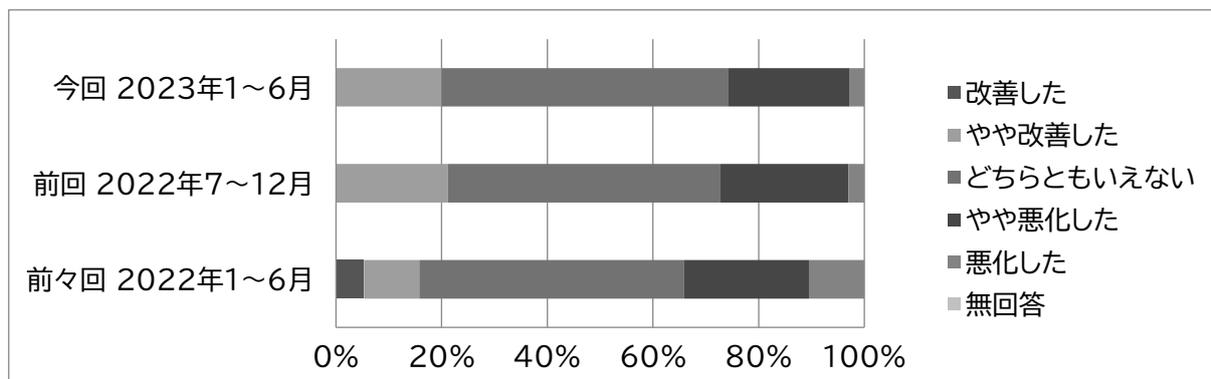
質問 14 の回答の理由(質問 15)についてみると、「売上高の変化」(68.6%)、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(54.3%)、「人件費の変化」(22.9%)が上位三位までの理由だった(図表 3-18)。前回、前々回調査から、「売上高の変化」の割合が継続的に上昇している。また、「設備資金需要の変化」、「金融政策、金利の変化」の割合が大きく上昇している。前回調査(2022 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「売上高の変化」(+8.0)、「設備資金需要の変化」(+11.3)
「金融機関の貸出態度の変化」(+5.6)、「金融政策、金利の変化」(+8.6)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「無回答」(-3.0)

となった。

質問 14: 2023 年上半期(1～6 月期) の資金繰りの状況

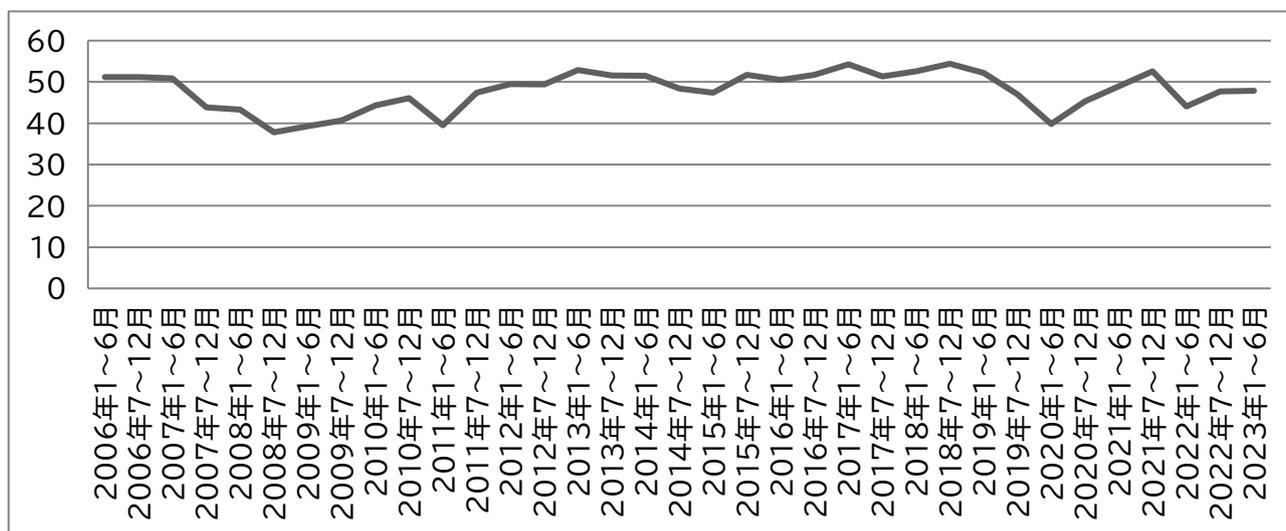
図表 3-16 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

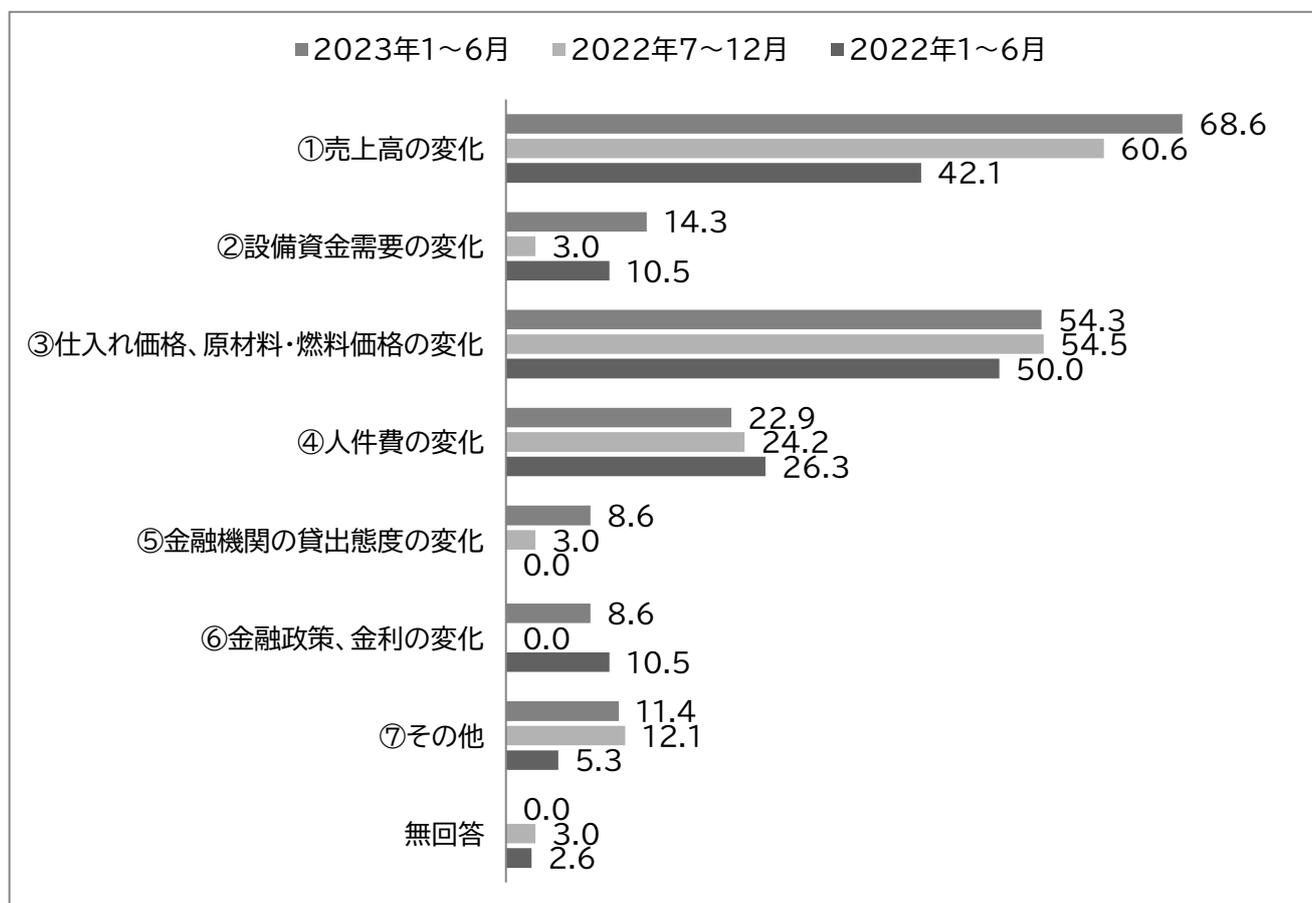
	改善した	やや改善した	どちらともいえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI
今回 2023 年 1～6 月	0.0	20.0	54.3	22.9	2.9	0.0	47.9
前回 2022 年 7～12 月	0.0	21.2	51.5	24.2	3.0	0.0	47.7
前々回 2022 年 1～6 月	5.3	10.5	50.0	23.7	10.5	0.0	44.1

図表 3-17 DI の推移(%)



質問 15: 質問 14 の回答理由

図表 3-18 回答の割合(前回、前々回との比較を含む、%)



(%)

質問 15	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答
質問 14								
改善した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや改善した	17.1	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0
どちらともいえない	25.7	14.3	37.1	17.1	2.9	5.7	2.9	0.0
やや悪化した	22.9	0.0	11.4	5.7	5.7	2.9	5.7	0.0
悪化した	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	68.6	14.3	54.3	22.9	8.6	8.6	11.4	0.0

(注) 35 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

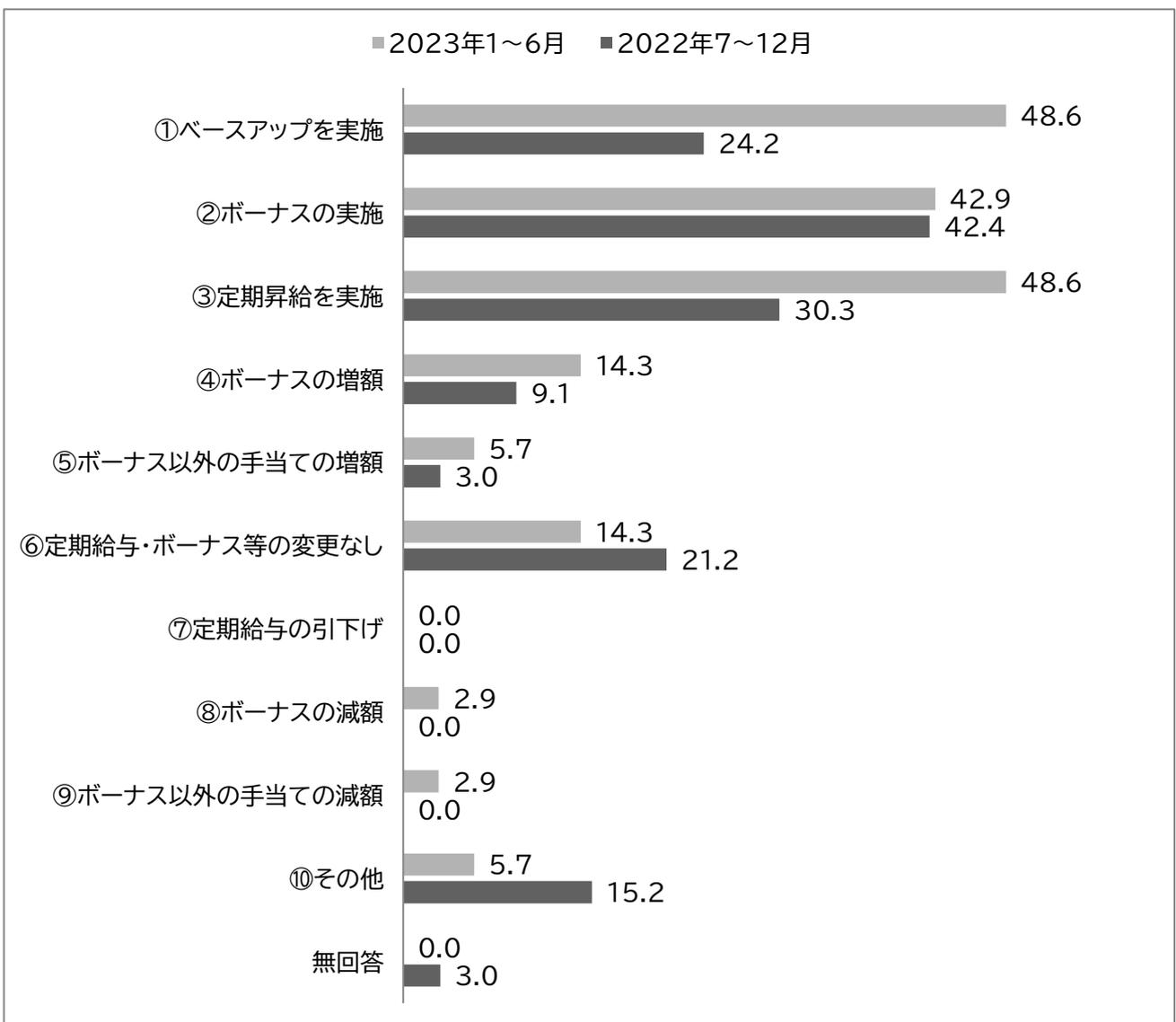
3.2.6. 賃金等の状況(質問 16, 17)

前回調査(2022年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「ベースアップを実施」(+24.4)、「定期昇給を実施」(+18.3)、「ボーナスの増額」(+5.2)、
- ・ 3%ポイント以上減少: 「定期給与・ボーナス等の変更なし」(-6.9)、「その他」(-9.5)、「無回答」(-3.0)

質問 16: 賃金等の状況

図表 3-19 回答の割合(前期との比較を含む、%)



(注) 今回調査は 35 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 17: 質問 16 の回答理由

- ◆ ①ベースアップを実施
 - ・ 「栃木県の最低賃金の改正に合わせて」
- ◆ ③定期昇給を実施
 - ・ 「採用時に給与水準を上げておく必要に迫られている為、現状の社員給与を引き上げた。」
- ◆ ⑤ボーナス以外の手当の増額
 - ・ 「不景気で賞与は見込めないため。残業代などを多く支払維持させている。」
- ◆ ⑥定期給与・ボーナス等の変更なし
 - ・ 「業績が悪いなりに、なるべく従業員に影響しないようにしている。」
- ◆ ⑧ボーナスの減額
 - ・ 「利益に応じた配分なので、減額となっている。」
- ◆ ⑨ボーナス以外の手当の減額
 - ・ 「売上の減少」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「定期昇給、ボーナスは毎年実施、ベースアップは数年ぶりに実施」
 - ・ 「雇用確保(維持)のため」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「・物価上昇の影響
 - ・ 人材確保の一環(従業員満足度向上)」
 - ・ 「新入社員の初任給の引き上げ、既存社員(パート含め)のベースアップを実施している。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施、⑤ボーナス以外の手当の増額
 - ・ 「物価高対策」
- ◆ ①ベースアップを実施、③定期昇給を実施、
 - ・ 「雇用の維持、物価上昇への対応」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「物価上昇が激しいので、賃金の増加を行う。2%程度」
など

3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問

質問 18～25 は、小山市における昨今の社会・経済情勢に関する質問を行った。以下その結果を述べる。

3.3.1. 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響

質問 18～21 では新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響とその理由についてたずねた。それぞれ、供給面(質問 18)、営業・勤務形態等(質問 19)、需要面(質問 20)の影響に分けて質問を行った。

その結果(複数回答可)をみると、まず、供給面(質問 18)では、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(20.0%)、「供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない」(17.1%)、「コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ」(14.3%)、「商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った」(14.3%)、「コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ」(14.3%)が上位三位までの理由だった(図表 3-20)。

前回調査(2022年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「原材料・部品の入手の状況はコロナ禍前に戻った」(+8.4)、
「無回答」(+5.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ一部商品の仕入れが困難なままだ」(-13.0)、
「コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ」(-9.9)

となった(図表 3-20)。前回調査と比べ全般的に供給能力の回復傾向が見られた。

次に、営業・勤務形態等(質問 19)では、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(25.7%)、「コロナ禍前の営業時間に戻った」(20.0%)、「従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った」(20.0%)が上位三位までの理由だった(図表 3-21)。

前回調査(2022年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った」(+10.9)、
「コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている」(+5.2)、
「コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ」(+11.0)、
「コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ」(+5.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ」(-6.6)、
「コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ」(-15.3)、
「その他」(-3.2)

となった(図表 3-21)。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行が影響を及ぼしたのか、前回調査と比べ、営業・勤務形態がコロナ禍前の状態に戻りつつあることがうかがえた。

最後に、需要面(質問 20)では、「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(31.4%)、「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(25.7%)、「全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した」(17.1%)、「もともとコロナ禍はほとんどない」(17.1%)が上位三位までの理由だった(図表 3-22)。

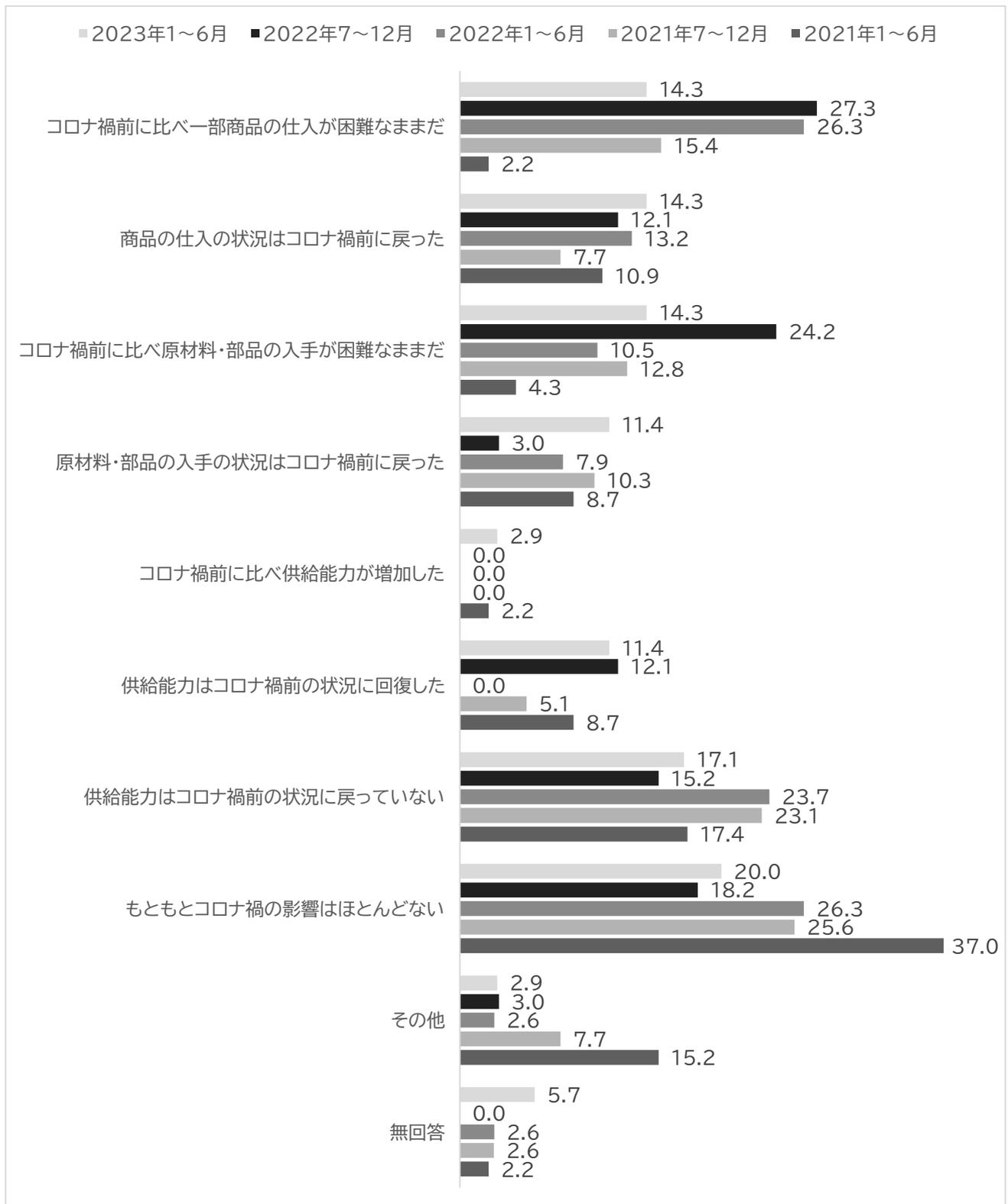
前回調査(2022年12月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(+13.6)、
「全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した」(+11.0)、
「無回答」(+5.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(-14.1)、
「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した」(-3.0)、
「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(-10.2)

となった(図表 3-22)。この質問についても、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行が影響を及ぼしたのか、需要の回復傾向をうかがうことができる。

質問 18: コロナ禍の影響(供給面)

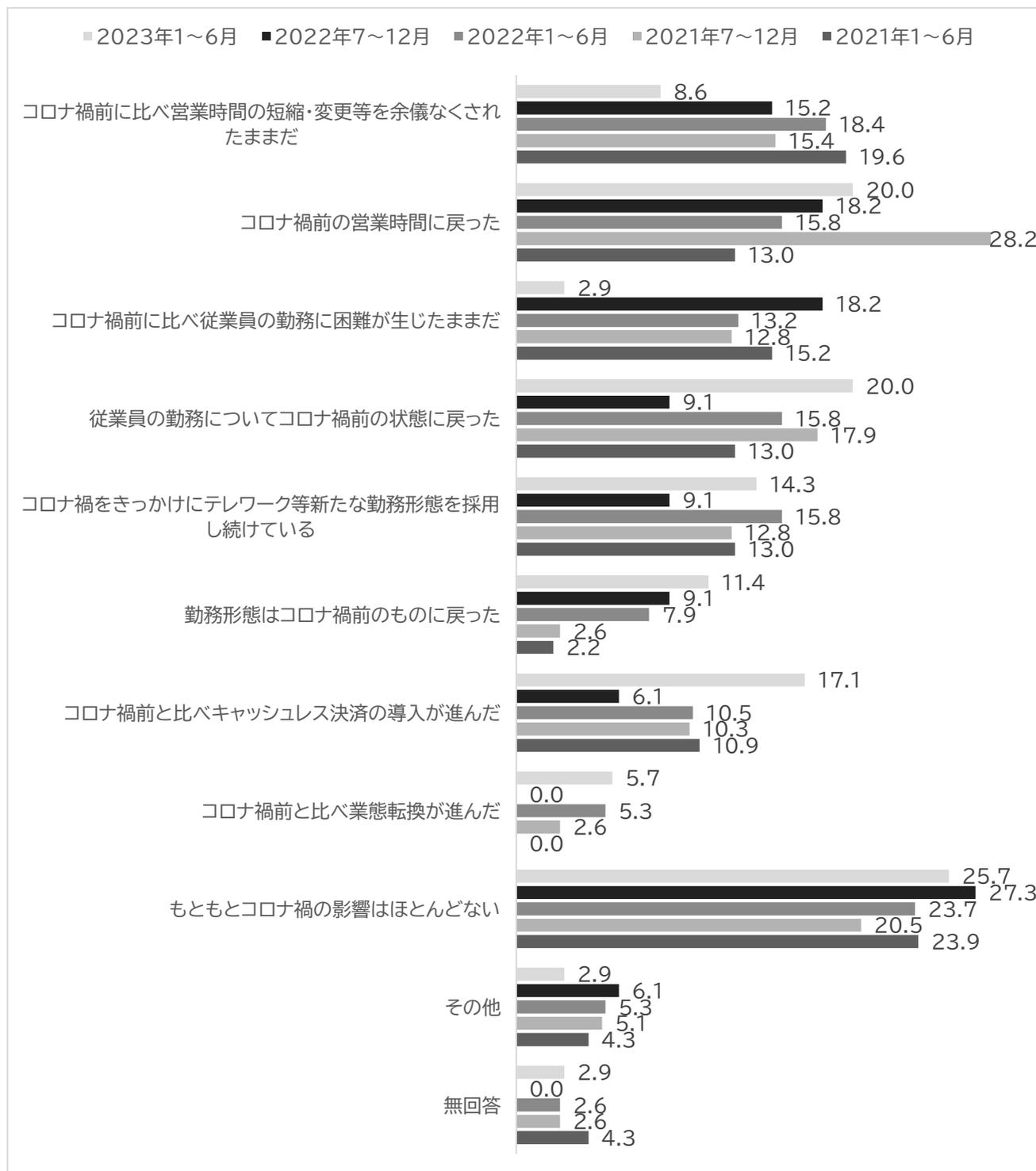
図表 3-20 回答の割合(%)



(注) 今回調査は 35 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 19: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

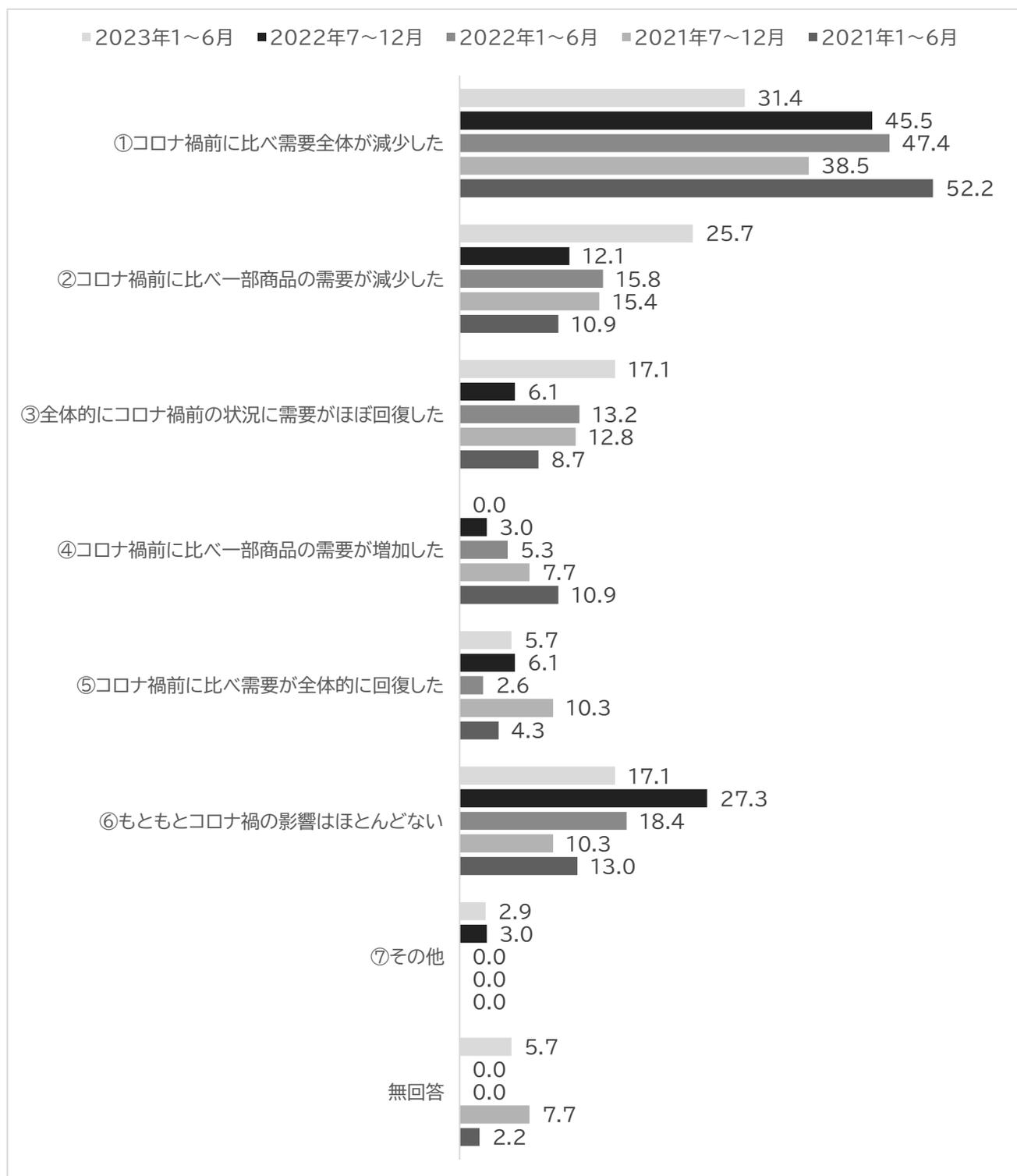
図表 3-21 回答の割合(%)



(注) 今回調査は 35 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 20: コロナ禍の影響(需要面)

図表 3-22 回答の割合(%)



(注) 今回調査は 35 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 21: 質問 18~20 の回答理由

- ・ 「コロナ等の影響で半導体が不足し、納期が遅れ、売上が減少。
・コロナで ZOOM 会議や内部体制の見直しが計れた。」(質問 18①、質問 19⑥、⑦、質問 20①)
- ・ 「コロナによる半導体不足の影響で、部品が入り難い物(メーカー支給部品)がまだある為、メーカーから受注が減っている物がある。助成金の影響で需要を先食いしてしまった部分がある。その為、コロナ禍では感染拡大の為に休業等があったが、現状では生産調整の為に休業を行っている。」(質問 18③、質問 19⑩、質問 20⑦)
- ・ 「18.コロナ感染により、担当者不在になることが減少
19.オンライン会議など利用している
20.施設授業が高まりつつある」(質問 18⑤、質問 19⑤、質問 20⑤)
- ・ 「コロナによる特需があったので、やや反動で需要が減少している。」(質問 18⑦、質問 19⑦、質問 20①)
- ・ 「金融支援を継続してきた為」(質問 18⑧、質問 19④、⑦、質問 20⑥)
- ・ 「客先の工場等で生産に減少がある為、荷物が出ない。」(質問 18⑨、質問 19⑨、質問 20①)
- ・ 「コロナの影響で変更した事について、元に戻ることが困難な事が多いため」(質問 18①、③、質問 19①、質問 20②)
- ・ 「コロナ禍前に比べて、1 件当たりの利用人数が縮小されている。このため売り上げの総額は伸び悩んでいる。」(質問 18①、⑦、質問 19①、質問 20①)
- ・ 「影響は減っているが、ほぼ回復と言っている状況。」(質問 18③、⑦、質問 19⑤、質問 20③)
など

3.3.2. 「2024 年問題」に関する質問

質問 22～25 では「2024 年問題」に関する質問を行った。

質問 22 では、「2024 年問題」の認知度をたずねた。「ある程度内容を理解している」が 68.6%と最も高い割合であり、次に「内容をあまり理解していない」が 20.0%となった(図表 3-23)。

まず、質問 23 では、荷主企業として「2024 年問題」の影響をどのように受けるのかをたずねた。

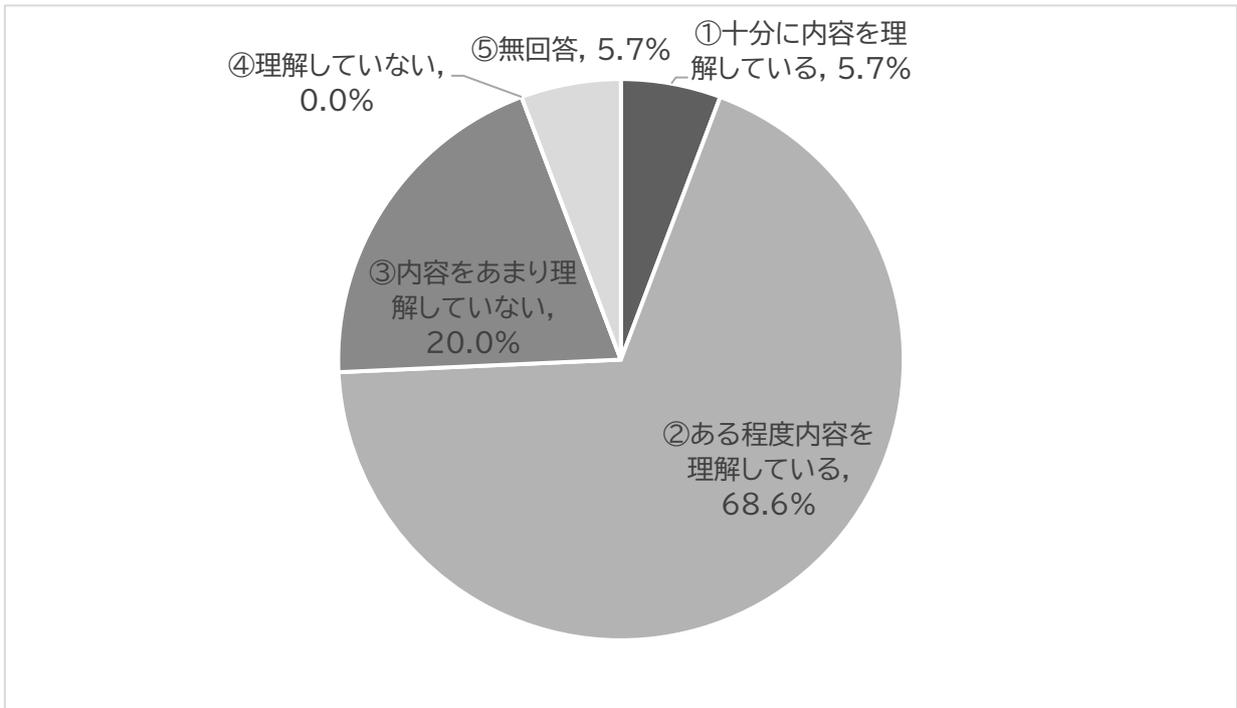
「荷主企業でない」、「無回答」を除いて、「配送コストが高騰する」(40.0%)、「荷物が運べない、配送遅延が生じる」(14.3%)、「集荷時間など配送スケジュールを調整する」(14.3%)が上位三位までの理由だった(図表 3-24)。

次に、質問 24 では、運送事業者として「2024 年問題」の影響をどのように受けるのかをたずねた。「運送事業者でない」、「無回答」を除いて、「ドライバー等の賃金が減少する」(5.7%)、「荷主等との交渉を行わなくてはならない」(5.7%)、「長距離運航等の廃止など事業形態を変更する」(5.7%)、「どのような影響を受けるか検討中である」(5.7%)が上位の理由だった(図表 3-25)。

最後に、質問 25 では、「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題をたずねた。現行のシステムを見直す取り組みがなされている一方で、物流コストの上昇や、納品の遅延、人手不足といった課題が指摘された。

質問 22: 「2024 年問題」の認知度

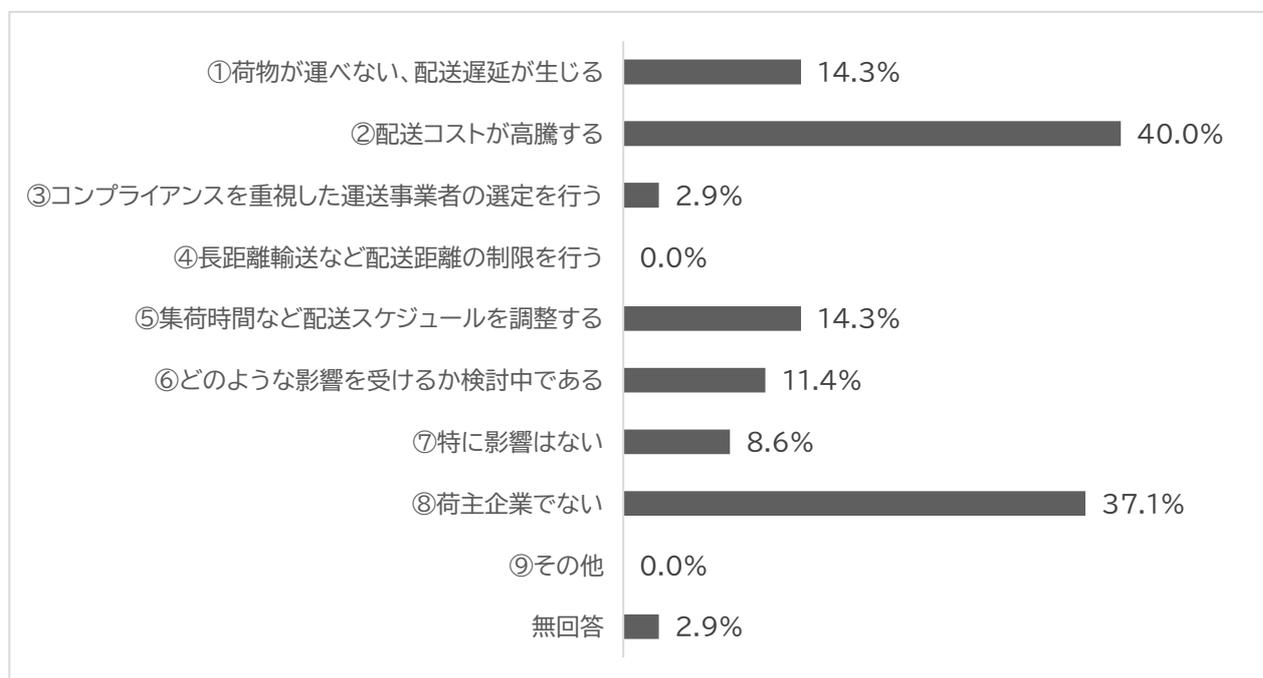
図表 3-23 回答の割合



(注)35 社に対する比率

質問 23: 「2024 年問題」の影響(荷主企業)

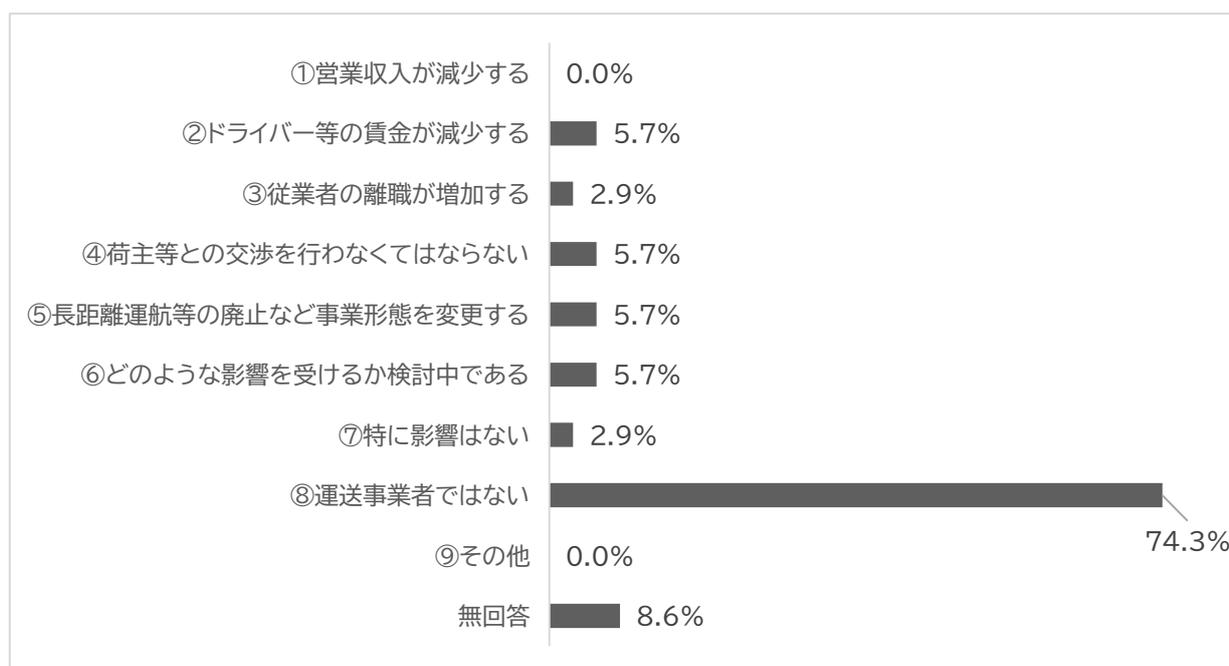
図表 3-24 回答の割合



(注)35 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 24: 「2024 年問題」の影響(運送事業者企業)

図表 3-24 回答の割合



(注)35 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 25: 「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題

- ・ 「こまめな仕入れでは納品に遅延が生じる可能性あり。
・ 一度の仕入れ数量を増やしたいが、リース料が発生する者があり、余分に仕入れると費用の増加に繋がってしまうリスクあり。」(質問 22②、質問 23⑤、⑥、質問 24⑧)
- ・ 「配達コストの上昇に備え、集中化が自社内省化等で対応。」(質問 22②、質問 23②、⑤)
- ・ 「休日労働の見直しや、休息時間の確保等」(質問 22②、質問 23⑥、質問 24⑥)
- ・ 「人材を増やそうとしているが、業界全体として人出が足りていない状況なので、どのように対策をしたら良いのか、悩み中です。」(質問 22②、質問 23⑧、質問 24⑤、⑥)
- ・ 「2024 年問題の懸念材料として、あらゆる物流コストが上昇してしまうのではと心配です。」(質問 22②、質問 23⑧、質問 24⑧)
など

4. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 速報(2023年4-6月期・1次速報(2023(令和5)年8月15日公表))でみると、2023年の実質 GDP 成長率(2015年暦年連鎖価格)は前年比1.4%増となった。四半期別(季節調整済、前期比)でみると、2023年4~6月の実質 GDP 成長率は1.5%、年率換算で6.0%増となった。輸出の増加と輸入の減少が GDP を押し上げた半面、内需に関する項目は伸び悩んでいる。2023年4~6月の名目 GDP 成長率は前期比2.9%増、年率換算で12.0%増となった。近年の物価上昇を背景に、実質 GDP 成長率に比べ、名目 GDP 成長率が高い水準となっている。実際、物価の変化を表す物価指数のひとつである消費者物価指数(2023年(令和5)年7月分(2023年8月18日公表))をみると、2022年に入ってから上昇傾向にある(図表5-1)。

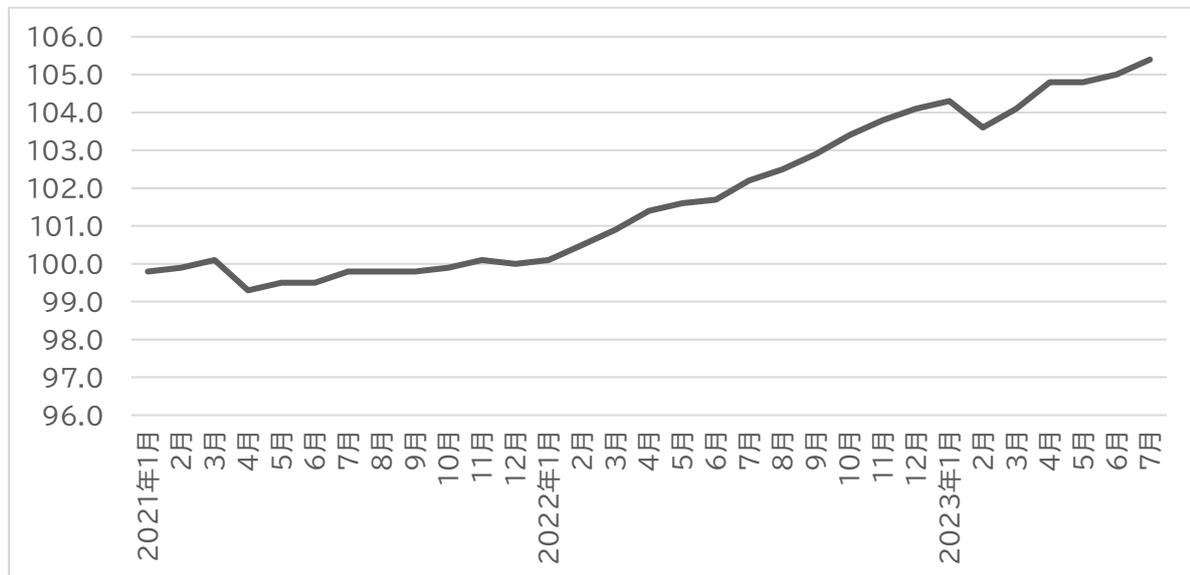
他方、毎月勤労統計(2023年6月確報(2023年8月25日公表))によると、現金給与総額(名目賃金)は前年同月比2.3%増であったが、物価変動の影響を考慮した実質賃金は前年同月比1.6%減であり、15カ月連続で前年割れとなった(図表5-2)。実質賃金の下落は、賃金の上昇が物価上昇に追いついておらず、家計が購入できる財・サービスの量が減少している状況を意味している。

こうした状況のなか2023年6月から7月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(2023年度第1回)」の結果は、日本経済の動向を背景に、景気回復傾向が見られた。アンケート調査のDIでも、50%を超える項目が多く見られた。特に、業界の小山市での売上げ(質問6)のDIは、調査開始以来最も高い水準であった。2023年5月に新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類感染症に引き下げられ、さまざまな制限が撤廃されたことは、一部の業界・店舗にとっては大きくプラスに働いたとみられる。このことはコロナ禍についての質問(質問18~21)の回答によく表れている。また、近年の物価の上昇が進んでいることは、販売価格見通し(質問12)のDIが調査開始以来2番目に高い水準になったことから見て取れる。また景気の回復や物価の上昇を背景に、賃金等の状況(質問16)で、「ベースアップを実施」、「定期昇給を実施」の水準が大きく上昇したことからわかるように、企業の賃金上昇を積極的に行っていることもうかがえた。ただし、毎月勤労統計での実質賃金の動きを考慮すると、この賃金の上昇が物価上昇に対して十分なものであるかは検討していく余地があるだろう。雇用見通し(質問13)のDIが調査開始以来2番目に高い水準になったことから、今後は人手不足が慢性化していく恐れがある。人材確保のためにも、賃金の設定を含めた労働環境の整備が経営課題となるだろう。

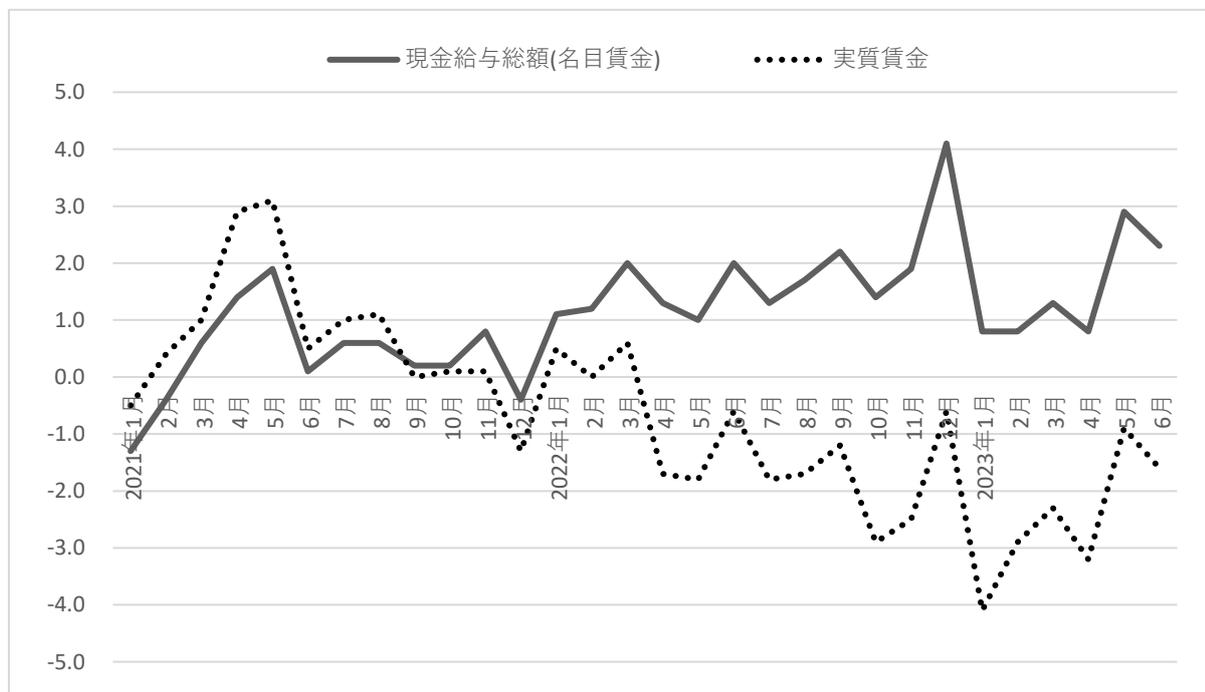
2023年8月には経営再建中の中国不動産大手、中国恒大集団がアメリカで破産申請を行った。他の中国不動産企業でも資金繰り難が表面化するなど、不動産市場の不況による中国の景気低迷が懸念される。アメリカの中央銀行にあたるFRB(連邦準備制度理事会)やEUの中央銀行にあたるECB(欧州中央銀行)をはじめとして、高い水準の物価上昇に直面している国や地域の中央銀行は、物価上昇を抑えるための金融引き締め政策を継続して実施している。このような金融引き締め政策の長期化は、景気後退を招き得る。2022年2月から続く、ロシアのウクライナへの軍事侵攻ははまだ終結の気配を見せることはなく、サプライチェーンの混乱や物価高を生じさせている。これらの問題を背景とした、アメリカ、中国、ユーロ圏など海外経済の悪化は、日本経済にとっても外需の伸び悩みリスクになる。

2023年4月9日、長らく日本銀行総裁を務めた黒田東彦氏の後任として、植田和男氏が新しい日銀総裁に就任した。黒田総裁時代に行われた金融緩和政策がどの程度引き継がれ、修正されるのか注視していく必要がある。

図表 5-1 消費者物価指数(前年同月比、生鮮食品を除く、2020年=100)²



図表 5-2 現金給与総額(名目賃金) と実質賃金(前年同月比、%)³



² 総務省ウェブページより筆者作成

³ 厚生労働省ウェブページより筆者作成

(参考資料)

i. 小山市景気動向アンケート調査票(2023 年度第 1 回)

小山市景気動向アンケート調査 調査票(令和 5 年度第 1 回)

[フェースシート]

小山市経済動向実態調査以外の目的には一切使用いたしませんので、下記の項目にご記入いただきますようお願い申し上げます。

1. 貴店(貴社)の主とする業種(小山市にある事業所(店舗)で取り扱っている業種)は何ですか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 流通業(小売業) ② 製造業 ③ 金融・保険業 ④ 運輸業 ⑤ ホテル・旅館業
⑥ 飲食業 ⑦ 通信・放送業 ⑧ 不動産・住宅業 ⑨ サービス業 ⑩ 印刷業
⑪ その他()
2. 貴店(貴社)の従業者数(パート・アルバイトを含む)(小山市の事業所(店舗)における従業者)について、当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 1~4 人 ② 5~9 人 ③ 10~19 人 ④ 20~29 人
⑤ 30~49 人 ⑥ 50~99 人 ⑦ 100 人以上 ⑧ 不明
3. 貴店(貴社)の年間売上げ(小山市の事業所(店舗)における売上げ)について、当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 3000 万円未満 ② 3000 万円~1 億円未満 ③ 1 億円~5 億円未満
④ 5 億円~10 億円未満 ⑤ 10 億円以上 ⑥ 不明
4. 貴店(貴社)の小山市の店舗(事業所)における売上げのうち、小山市内の企業、消費者からの需要の割合はおよそどのくらいですか。当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 80~100% ② 60~79% ③ 40~59% ④ 20~39% ⑤ 0~19% ⑥ 不明

お忙しいところご協力ありがとうございます。次ページ以降の調査にご回答いただきました方には、次回調査時に今回の調査結果とともに、些少なからずクオカード(1000 円)をお送りいたします。

同封した「企業情報送付フォーム」に必要事項を記入し、返送用封筒を用いて回答いただいた調査票とともに企業情報送付フォームをご返送ください。

「小山市経済動向実態調査」

委託元 小山市経済部商業観光課

調査受託 白鷗大学ビジネス開発研究所

電話:0285-22-1111(大学・代表)

Fax:0285-20-8157

調査担当(西谷、高木、八尾、櫻庭)

【質問項目】

2023年6月現在の状況でお答え下さい。1.から25.(6ページ目)までご回答のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて2023年上半期(1~6月期)の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(水準)

- ① 良い ② やや良い ③ どちらともいえない ④ やや悪い ⑤ 悪い

2. 1.のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 小山市の人出の状況 ② お客様や取引先の様子(購買態度など)
③ 物価の動き ④ 雇用の状況 ⑤ 周辺地域の様子
⑥ その他()

3. 2.の回答内容について具体的に説明してください。

4. 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて、2023年下半期(7~12月期)の景気は、2023年上半期(1~6月期)と比べて良くなると思いますか、悪くなると思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(将来の方向)

- ① 良くなる ② やや良くなる ③ 変わらない ④ やや悪くなる ⑤ 悪くなる

5. 4.の回答内容について具体的に説明してください。

6. 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における2023年上半期(1~6月期)の需要は季節的な要因を除いて、2022年下半期(7~12月期)にくらべて売上金額で増加したと思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

7. 6.でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。家計消費向け取引(B to C)を行っていない場合は「家計消費向け取引(B to C)を行っていない」に○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【家計消費向け取引(B to C)の場合】

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き
- ⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ 家計消費向け取引(B to C)を行っていない
- ⑧ その他()

8. 6.でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。企業向け取引(B to B)を行っていない場合は、「企業向け取引(B to B)を行っていない」に○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【企業向け取引(B to B)の場合】

- ① 受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子
- ④ 競争相手の様子 ⑤ 企業向け取引(B to B)を行っていない
- ⑥ その他()

9. 7.、8.の回答内容について具体的に説明してください。

10. 貴店(貴社)の売上の動き等からみて、貴業界の小山市における 2023 年下半期(7～12 月期)の売上高(生産高)の見通しをお伺いします。2023 年上半期(1～6 月期)と比べて、季節的要因を除いて、2023 年下半期(7～12 月期)の売上高(生産高)は増加すると思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(売上高の先行き)

- ① 増加する ② やや増加する ③ 変わらない ④ やや減少する ⑤ 減少する

11. 10.でそのように回答した理由を教えてください。

12. 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における 2023 年下半期(7～12 月期)の販売価格の見通しをお伺いします。2023 年上半期(1～6 月期)と比べて、2023 年下半期(7～12 月期)の販売価格はどうなると思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(価格見通し)

- ① 上昇する ② やや上昇する ③ 変わらない ④ やや低下する ⑤ 低下する

13. 貴店(貴社)の雇用(従業員)の状況等からみて、貴業界の小山市における 2023 年下半年(7~12 月期)の雇用状況の見通しをお伺いします。2023 年上半年(1~6 月期)と比べて、2023 年下半年(7~12 月期)の雇用状況はどうかと思いますか。従業員が不足しますか、過剰になりますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(雇用見通し)

- ① 不足する ② やや不足する ③ 横ばい ④ やや過剰となる ⑤ 過剰となる

14. 貴店(貴社)あるいは貴業界における資金繰りの状況をお伺いします。貴店(貴社)の 2023 上半年(1~6 月期)における資金繰りは、2022 年下半年(7~12 月期)にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 改善した ② やや改善した ③ どちらともいえない ④ やや悪化した ⑤ 悪化した

15. 14.でそのように回答した理由をあげてください。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 売上高の変化 ② 設備資金需要の変化 ③ 仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化
④ 人件費の変化 ⑤ 金融機関の貸出態度の変化 ⑥ 金融政策、金利の変化
⑦ その他()

16. 貴店(貴社)における 2023 年度の主な従業員の賃金等の状況をお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① ベースアップを実施 ② ボーナスの実施 ③ 定期昇給を実施 ④ ボーナスの増額
⑤ ボーナス以外の手当の増額 ⑥ 定期給与・ボーナス等の変更なし ⑦ 定期給与の引下げ
⑧ ボーナスの減額 ⑨ ボーナス以外の手当の減額
⑩ その他()

17. 16. でそのように回答した具体的内容・理由を記入してください。

〔新型コロナウイルス感染症(コロナ禍)に関する質問〕

18. 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関して、2023 年上半期(1～6 月期)には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【供給面への影響】

- ① コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ
- ② 商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った
- ③ コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ
- ④ 原材料・部品の入手の状況はコロナ禍前に戻った
- ⑤ コロナ禍前に比べ供給能力が増加した
- ⑥ 供給能力はコロナ禍前の状況に回復した
- ⑦ 供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない
- ⑧ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑨ その他()

19. コロナ禍に関して、2023 年上半期(1～6 月期)には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【営業・勤務形態等への影響】

- ① コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ
- ② コロナ禍前の営業時間に戻った
- ③ コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ
- ④ 従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った
- ⑤ コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている
- ⑥ 勤務形態はコロナ禍前のものに戻った
- ⑦ コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ
- ⑧ コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ
- ⑨ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑩ その他()

20. コロナ禍に関して、2023 年上半期(1～6 月期)には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【需要面への影響】

- ① コロナ禍前に比べ需要全体が減少した
- ② コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した
- ③ 全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した
- ④ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した
- ⑤ コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した
- ⑥ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑦ その他()

21. 18.～20.でそのように回答した具体的内容・理由を記入して下さい。

【「2024 年問題」に関する質問】

働き方改革関連法案により、2024 年 4 月 1 日から、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限規制が適用されます。この規制が適用されることによる諸問題は「2024 年問題」と呼ばれています。「2024 年問題」に関して以下の質問に回答してください。

22. 「2024 年問題」をご存知ですか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 十分に内容を理解している ② ある程度内容を理解している
- ③ 内容をあまり理解していない ④ 理解していない

23. 「2024 年問題」により、荷主企業としてどのような影響を受けますか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。荷主企業に該当しない場合は「荷主企業でない」を選択してください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 荷物が運べない、配送遅延が生じる ② 配送コストが高騰する
- ③ コンプライアンスを重視した運送事業者の選定を行う ④ 長距離輸送など配送距離の制限を行う
- ⑤ 集荷時間など配送スケジュールを調整する ⑥ どのような影響を受けるか検討中である
- ⑦ 特に影響はない ⑧ 荷主企業でない
- ⑨ その他()

24. 「2024 年問題」により、運送事業者としてどのような影響を受けますか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。運送事業者に該当しない場合は「運送事業者でない」を選択してください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 営業収入が減少する ② ドライバー等の賃金が減少する ③ 従業員の離職が増加する
- ④ 荷主等との交渉を行わなくてはならない ⑤ 長距離運航等の廃止など事業形態を変更する
- ⑥ どのような影響を受けるか検討中である ⑦ 特に影響はない ⑧ 運送事業者でない
- ⑨ その他()

25. 「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題について記入してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ii. 小山市景気動向アンケート調査(2023 年度第 1 回)の回答一覧

選択回答 質問 1~8

No	質問 1	質問 2	質問 4	質問 6	質問 7	質問 8
1	2	4	3	1	7	2
2	3	5	3	4	5	4
3	3	2	4	2	2	1
4	2	1	3	3	1	1
5	3	1, 2, 3	1	1	8	1, 2, 3, 4
6	2	2	2	4	5	5
7	2	2	4	2	3, 4	6
8	3	2	4	4	3	3
9	2	2	2	2	3	2
10	2	2	2	2	2	1
11	3	2	3	3	2	1
12	5	2, 3	5	4	7	5
13	5	2	5	3	6	5
14	4	2	4	5	7	1
15	3	3	3	2	7	1
16	3	2	3	3	1, 2	1
17	2	2	2	2	7	3
18	3	2, 4	2	2	1, 2, 3	1, 3
19	5	2, 5	3	5	5	1
20	3	2	2	2	7	1
21	2	5	2	3	7	3
22	3	2	3	3	2	5
23	2	2	2	2	2	2
24	3	2, 3, 5	2	3	1, 2, 4, 5	5
25	2	1	2	2	1	5
26	2	1	3	4	1	1
27	3	2, 3	3	2	8	5
28	3	2	2	3	5	3
29	2	2	2	2	1	1
30	2	4	2	4	7	1
31	3	2	2	3	2	1
32	3	5	3	2	4	1

33	4	3	3	4	5	3
34	3	2	2	4	7	1
35	2	2	3	2	2	3

選択回答 質問 10~16

No	質問 10	質問 12	質問 13	質問 14	質問 15	質問 16
1	2	3	2	2	1, 3	1, 2, 3
2	4	4	2	3	1	1
3	2	3	3	3	2, 3, 4	1, 2, 3, 4
4	2	2	3	3	3	10
5	2	1	2	2	7	1, 3
6	3	3	2	4	1, 7	1
7	4	2	2	2	1	1, 4
8	4	4	3	3	3	3
9	2	2	1	2	1	3
10	3	2	3	3	3	1
11	3	3	3	2	1	6
12	3	3	1	4	1, 4, 5	2, 4
13	2	3	1	3	1, 3	1, 2, 3, 5
14	5	3	3	5	1, 3	6
15	2	3	2	3	1, 2, 3, 4	1, 3
16	3	3	2	3	3	6
17	2	2	3	2	1	2, 3
18	2	2	2	3	1, 2	8
19	5	2	2	4	1, 3	1, 2, 3
20	2	3	2	3	1, 5	2, 3
21	3	2	3	3	1, 3	1, 2
22	3	3	3	4	1	6
23	2	2	3	3	1, 3	2
24	3	3	2	3	1, 2, 3, 4	1, 2, 3, 5
25	2	2	3	4	1, 3, 4, 7	1, 2, 3
26	3	3	3	4	1	9
27	3	3	2	3	3, 4	3
28	3	2	3	3	6	1, 3
29	2	2	2	2	1	3
30	3	2	4	4	1, 3, 5, 6	2, 3
31	3	2	2	3	3	1, 2, 4
32	2	2	3	3	7	10
33	3	3	1	3	2, 4, 6	1, 2, 3, 4
34	2	3	3	4	1, 3	2, 6
35	3	2	3	3	1, 3, 4	1

選択回答 質問 18～24

No	質問 18	質問 19	質問 20	質問 22	質問 23	質問 24
1	4	9	6	2	2	8
2	7	2	2	2	7	7
3	8	4	6	2	5, 6	8
4	1	2	-	2	8	8
5	1	6, 7	1	2	2, 5	-
6	2	2, 7	1, 2	2	8	-
7	8	9	6	3	8	8
8	6	8	2	3	2	4
9	1, 7	1	1	3	8	8
10	3	4	1	2	2	8
11	8	9	6	2	2	8
12	3, 7	5, 7, 8	1, 2	1	2, 3	2, 3, 5
13	2, 4	2, 4	1	2	8	8
14	8	9	1	2	6	6
15	5	5	5	2	1, 2	8
16	7	4	3	3	7	8
17	4	9	5	3	7	8
18	2	1	1	2	1, 2, 5	8
19	2	4	2	2	1, 2, 6	8
20	3, 7	5	3	2	8	8
21	-	-	-	-	-	-
22	6	2, 5	3	3	8	8
23	8	9	6	1	2	4
24	-	2, 6	3	2	1, 5	8
25	1	2, 5, 6, 7	1	2	2, 5	8
26	8	9	2	-	2	2, 8
27	6	4	3	3	1, 2	8
28	8	4, 7	6	2	8	8
29	1, 3	1	2	2	8	8
30	3	10	7	2	6	8
31	6	9	2	2	2	8
32	4	3	2	2	8	8
33	7	7	1	2	8	8
34	9	9	1	2	8	5, 6
35	2	6	3	2	8	8

記述回答 質問 1～3

No	質問 1	質問2	質問 2 その他の記述	質問3
1	2	4		他工場様の意見交換の場で人手不足という声が多い
2	3	5		
3	3	2		通信費削減意識が高い(安価な他者サービスの影響か…)広告宣伝費は削減対象の上位
4	2	1		アフターコロナとなり、with コロナよりはよくなっていると思われる。しかし、物価の上昇などから、コロナ前よりはまだまだ低いと感じる。
5	3	1, 2, 3		人出が多くなり、コロナ前に比べ良くはなっているものの、商品の納期が改善されず、物価も高くなり、景気はどちらともいえない状況。
6	2	2		セールの車もあるが、まとめ買いが多い
7	2	2		
8	3	2		電気代や材料代の上昇で経営が厳しい、売上への転嫁ができていない
9	2	2		予約数の増加
10	2	2		昨年より受注が若干多い
11	3	2		
12	5	2, 3		電気代、燃費の値上がり
13	5	2		材料費などを含む、原価高騰から様々な広い範囲に悪い影響が発生していると感じます。
14	4	2		輸送業務や品物の受注自体が減少している。
15	3	3		コロナが 5 類に引き下がり、落ち着きつつあるが、物価高が続いている。
16	3	2		前年売上が同様の為
17	2	2		生産の状況(フル生産)
18	3	2, 4		平均単価(売上)や台数など ポリュームと売上金額高
19	5	2, 5		22 年夏以降、客先からの受注、見積もりが減少している
20	3	2		5 月、コロナ禍の制約解除後から、少しずつ動きが良くなっている感あり。
21	2	5		
22	3	2		

23	2	2		
24	3	2, 3, 5		
25	2	1		コロナ 5 類移行に伴い、各種イベント等が再開され、明らかに人流が戻ってきた
26	2	1		人出が戻ってきていると思う。
27	3	2, 3		物価が上がり、単価は上がったが、客数は減っている。
28	3	2		
29	2	2		新型コロナウイルス感染症が“5類”に移行したことにより、人の流れが活発になってきたため
30	2	4		派遣会社の営業が少ない(じんざいが余っていない)
31	3	2		
32	3	5		冠婚葬祭の減少です
33	4	3		原料の値上がりに対し、販売単価の引き上げが追いついていることが見受けられる。
34	3	2		3~5 までの売上はそこそこ良かったが、6 月になり落ちている為(これは昨年と同じ傾向がありました)
35	2	2		青果の卸売量が増加している為。

記述回答 質問 4、5

No	質問 4	質問 5
1	3	生産コストが変動する要因がない
2	3	
3	4	物価上昇の影響
4	3	給料が上昇してくるとは感じられないため
5	1	人流が活発になり、with コロナが定着し、商品の納期が正常化されれば良くなる。
6	2	期待を込めて
7	4	
8	4	3の回答による
9	2	飲食を含む会合が増加する
10	2	前期の様子をみて
11	3	
12	5	人材不足
13	5	
14	4	物価や燃料の価格上昇がひびいてくる
15	3	物価高が続いていくと考えられる。
16	3	物価上昇もある為
17	2	現在の生産状況が続く模様
18	2	コロナの緊急事態も明け、人流など経済活動が活発になっている
19	3	変化のきしが見られない
20	2	上記3の傾向が続くと思われる。
21	2	
22	3	物価の上昇などまだ続くと思われる
23	2	
24	2	
25	2	人の動きは活発になるが、一方では物価高による日常生活での節約志向も引き続き高まると思われるため、消費はメリハリ型が続くと思われる。
26	3	物価高などになれてきているのかなと思う。
27	3	物価がこのままであれば変わらないと思う。
28	2	コロナ禍の収束
29	2	今後の新型コロナの感染状況に左右されると思うが「5 類」に移行して、あらゆる場面で制限が緩和されはじめたため
30	2	コロナ禍からの回復
31	2	
32	3	現状のまま推移すると思われま

33	3	飲食業などが売上回復する一面が感じられるが、製造業等は人手不足により売上確保等の対応が追いついていない。
34	2	昨年の売上の傾向がそうだったので。
35	3	

記述回答 質問 6、7

No	質問6	質問 7	質問 7 その他の回答
1	1	7	
2	4	5	
3	2	2	
4	3	1	
5	1	8	例年売上が上期 55 前後、下期 45 前後で推移するため
6	4	5	
7	2	3, 4	
8	4	3	
9	2	3	
10	2	2	
11	3	2	
12	4	7	
13	3	6	
14	5	7	
15	2	7	
16	3	1, 2	
17	2	7	
18	2	1, 2, 3	
19	5	5	
20	2	7	
21	3	7	
22	3	2	
23	2	2	
24	3	1, 2, 4, 5	
25	2	1	
26	4	1	
27	2	8	衣料の改装
28	3	5	
29	2	1	
30	4	7	
31	3	2	
32	2	4	

33	4	5	
34	4	7	
35	2	2	

記述回答 8、9

No	質問 8	質問 8 その他の回答	質問 9
1	2		原材料やエネルギーコストの低減
2	4		
3	1		光回線インターネットの受容があるため、戸建、集合住宅ともに営業人員を増員した。
4	1		
5	1, 2, 3, 4		業界全体の商品納期が正常化へ向かえば販売量、価格の上昇、取引先の活気、競争相手の活気が戻ってくる。
6	5		
7	6	建売業者などの取引は少なくなりました	
8	3		
9	2		会食事に高額なメニューの注文が増加している。
10	1		
11	1		
12	5		
13	5		
14	1		製造業があまり積極的にモノづくりをしていない。
15	1		防衛施設、拠点の拡充、首都圏都市開発など、鉄骨生産量増加のため
16	1		変化がない為
17	3		生産状況
18	1, 3		ここに来て、人材投資(採用含む)を増幅させたり、販売量が大きくなってきた
19	1		3の回答と同じ
20	1		インボイス電帳法等による若干の増あり
21	3		
22	5		
23	2		
24	5		たしかにコロナ前に戻りつつあるが、この3年間で世の中が変わり、DXも含めて、変化していくように思われる。それに、いかについていけるか、お客様の動向を注視しながら、経営していかななくてはならない。
25	5		入館者数の増加(3と同回答)

26	1		固定客が減少しつつあるため
27	5		
28	3		大きな変化はまだ起きていない
29	1		経済が活発に動き始めたため
30	1		当業界ではコロナ禍において、ユーザー様へ3密を避ける目的で機械導入の助成金を出していた為、需要の先食いをしてしまった。
31	1		
32	1		年度末に予算を消化
33	3		取引先からの売上に繋がる引き合いが低迷している。
34	1		毎年の傾向として、年後半の方が売上が良いため
35	3		

記述回答 質問 10、11

No	質問 10	質問 11
1	2	上半期に1カ月程度休止するため生産量減となる
2	4	
3	2	9の回答と同様
4	2	増加を目的として動かなければならない
5	2	納期の適正化(改善)が進む見込み
6	3	毎年だいたい同じを維持している
7	4	
8	4	
9	2	会食や出張の利用が増加する
10	3	原材料の高騰
11	3	
12	3	お客様の動きが上下して不明のため
13	2	
14	5	客先の動きがあまり活発ではない
15	2	続いていく見込みのため
16	3	数字上停滞すると考える
17	2	受注状況が良い
18	2	競合も多くなり、情報として他社も含めるとより販売状況は改善していると思うため
19	5	受注見込みとも少ない
20	2	上記問いの延長
21	3	
22	3	
23	2	
24	3	先が読めない。店の対応・対策で決まる。やり方次第で可能性はある。
25	2	4と同回答だが、消費減退が高まる懸念もある。
26	3	業界として値上げしづらい取引形態のため
27	3	物価が変わらない以上、客数、買上点数は伸びない。
28	3	投資意欲の動向がまだ不透明な為
29	2	年末へ向けてさらに経済が動きはじめると予想される
30	3	高齢化等によるユーザー様数の減少の影響
31	3	
32	2	コロナからかいほうされて運動部関係の大会が少し増加
33	3	取引先との関係から大きく変化した点を感じられない。
34	2	9の回答と同じ

35	3	
----	---	--

記述回答 質問 12~15

No	質問 12	質問 13	質問 14	質問 15	質問 15 その他の回答
1	3	2	2	1, 3	
2	4	2	3	1	
3	3	3	3	2, 3, 4	
4	2	3	3	3	
5	1	2	2	7	納期が遅いため、在庫が圧縮され、資金繰りは良い。
6	3	2	4	1, 7	売上減少
7	2	2	2	1	
8	4	3	3	3	
9	2	1	2	1	
10	2	3	3	3	
11	3	3	2	1	
12	3	1	4	1, 4, 5	
13	3	1	3	1, 3	
14	3	3	5	1, 3	
15	3	2	3	1, 2, 3, 4	
16	3	2	3	3	
17	2	3	2	1	
18	2	2	3	1, 2	
19	2	2	4	1, 3	
20	3	2	3	1, 5	
21	2	3	3	1, 3	
22	3	3	4	1	
23	2	3	3	1, 3	
24	3	2	3	1, 2, 3, 4	
25	2	3	4	1, 3, 4, 7	エネルギーコストが大きい
26	3	3	4	1	
27	3	2	3	3, 4	
28	2	3	3	6	
29	2	2	2	1	
30	2	4	4	1, 3, 5, 6	
31	2	2	3	3	
32	2	3	3	7	借り入れはありません
33	3	1	3	2, 4, 6	

34	3	3	4	1, 3	
35	2	3	3	1, 3, 4	

記述回答 質問 16、17

No	質問 16	質問 16 その他の回答	質問 17
1	1, 2, 3		定期昇給、ボーナスは毎年実施、ベースアップは数年ぶりに実施
2	1		
3	1, 2, 3, 4		・物価上昇の影響 ・人材確保の一環(従業員満足度向上)
4	10	従業員なし	
5	1, 3		物価高や社会保険の上昇分をカバー、売り上げ目標には未達成も、経常利益は目標に近く出ている。従業員のモチベーションUP
6	1		栃木県の最低賃金の改正に合わせて
7	1, 4		
8	3		いくらかでも上げる努力をした
9	3		採用時に給与水準を上げておく必要に迫られている為、現状の社員給与を引き上げた。
10	1		
11	6		
12	2, 4		ボーナスというより、本人の努力度により支給
13	1, 2, 3, 5		物価高対策
14	6		業績が悪いなりに、なるべく従業員に影響しないようにしている。
15	1, 3		13%賃上げも億票実施中 利益還元 物価高のため
16	6		売上が変わらない為
17	2, 3		物価上昇が激しいので、賃金の増加を行う。2%程度
18	8		利益に応じた配分なので、減額となっている。
19	1, 2, 3		雇用確保(維持)のため
20	2, 3		例年通りとしたが、やや増。
21	1, 2		
22	6		
23	2		
24	1, 2, 3, 5		昨今の世の中の状況を鑑みて、人は一番大事な財産だから
25	1, 2, 3		物価高に対する支援(微々たる金額ですが…)
26	9		売上の減少

27	3		会社的にパートタイマー制度(スキル評価)見直し
28	1, 3		雇用の維持、物価上昇への対応
29	3		就業規則に則るため
30	2, 3		雇用維持のため
31	1, 2, 4		
32	10	個人事業主です	
33	1, 2, 3, 4		新入社員の初任給の引き上げ、既存社員(パート含め)のベースアップを実施している。
34	2, 6		特に変更はなし
35	1		最低賃金+60 円の実施(パート・アルバイト)

記述回答 質問 18、19

No	質問 18	質問 18 その他の回答	質問 19	質問 19 その他の回答
1	4		9	
2	7		2	
3	8		4	
4	1		2	
5	1		6, 7	
6	2		2, 7	
7	8		9	
8	6		8	
9	1, 7		1	
10	3		4	
11	8		9	
12	3, 7		5, 7, 8	
13	2, 4		2, 4	
14	8		9	
15	5		5	
16	7		4	
17	4		9	
18	2		1	
19	2		4	
20	3, 7		5	
21	-			
22	6		2, 5	
23	8		9	
24	-		2, 6	
25	1		2, 5, 6, 7	
26	8		9	
27	6		4	
28	8		4, 7	
29	1, 3		1	

30	3		10	営業時間(稼働)の短縮、変更ではなく、コロナ禍同様毎月何日か休業している。
31	6		9	
32	4		3	
33	7		7	
34	9	仕事量は減っている (売上が戻らない)	9	
35	2		6	

記述回答 質問 20、21

No	質問 20	質問 20 その他の回答	質問 21
1	6		売り上げ操業にはほとんど影響がなかった。
2	2		
3	6		・分散出社を通常出社に戻した。 ⇒マスク(5 類移行後は任意)、消毒の徹底やワクチン接種の関係で感染者減少傾向のため
4	-		
5	1		・コロナ等の影響で半導体が不足し、納期が遅れ、売上が減少。 ・コロナで ZOOM 会議や内部体制の見直しが計れた。
6	1, 2		
7	6		
8	2		
9	1		コロナ禍前に比べて、1 件当たりの利用人数が縮小されている。このため売り上げの総額は伸び悩んでいる。
10	1		
11	6		
12	1, 2		
13	1		
14	1		コロナによりいまだに買い控えや投資控えが感じられる。
15	5		18.コロナ感染により、担当者不在になることが減少 19.オンライン会議など利用している 20.施設授業が高まりつつある
16	3		お客様の入客は徐々に戻ってきている
17	5		引き合い案件が増えた
18	1		
19	2		
20	3		影響は減っているが、ほぼ回復と言っていい状況。
21	-		
22	3		
23	6		
24	3		
25	1		・鉄道利用者がコロナ前水準には至らない ・強豪環境の変化(SM/ドラッグストア等の増加)

26	2		供給面は影響少なかったが、大口の注文が入りづらくなった。
27	3		
28	6		金融支援を継続してきた為
29	2		コロナの影響で変更した事について、元に戻る事が困難な事が多いため
30	7	問9と同様	コロナによる半導体不足の影響で、部品が入り難い物(メーカー支給部品)がまだある為、メーカーから受注が減っている物がある。助成金の影響で需要を先食いしてしまった部分がある。その為、コロナ禍では感染拡大の為の休業等があったが、現状では生産調整の為の休業を行っている。
31	2		
32	2		冠婚葬祭の減少
33	1		コロナによる特需があったので、やや反動で需要が減少している。
34	1		客先の工場等で生産に減少がある為、荷物が出ない。
35	3		

記述回答 質問 22～24

No	質問 22	質問 23	質問 23 その他の回答	質問 24	質問 24 その他の回答
1	2	2		8	
2	2	7		7	
3	2	5, 6		8	
4	2	8		8	
5	2	2, 5		-	
6	2	8		-	
7	3	8		8	
8	3	2		4	
9	3	8		8	
10	2	2		8	
11	2	2		8	
12	1	2, 3		2, 3, 5	
13	2	8		8	
14	2	6		6	
15	2	1, 2		8	
16	3	7		8	
17	3	7		8	
18	2	1, 2, 5		8	
19	2	1, 2, 6		8	
20	2	8		8	
21	-	-		-	
22	3	8		8	
23	1	2		4	
24	2	1, 5		8	
25	2	2, 5		8	
26	-	2		2, 8	
27	3	1, 2		8	
28	2	8		8	
29	2	8		8	
30	2	6		8	
31	2	2		8	
32	2	8		8	
33	2	8		8	
34	2	8		5, 6	

35	2	8		8	
----	---	---	--	---	--

記述回答 質問 25

No	質問 25
1	運転手の拘束時間
2	
3	・こまめな仕入れでは納品に遅延が生じる可能性あり。 ・一度の仕入れ数量を増やしたいが、リース料が発生する者があり、余分に仕入れると費用の増加に繋がってしまうリスクあり。
4	
5	配達コストの上昇に備え、集中化が自社内省化等で対応。
6	
7	
8	ナシ
9	
10	
11	
12	経済の物流が変わり、トヨタ方式の問題がある
13	
14	休日労働の見直しや、休息時間の確保等
15	輸送にコストがかかるため、身長な業者選定、価格交渉が必要である。
16	特になし
17	
18	自動車(商品)の配送に困難がある
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	今のところ特に取り組んでいることはありません。
27	くわしくはわかりませんが、便がどのように変わっていくのか。店出しにどう影響するか。
28	
29	2024 年問題の懸念材料として、あらゆる物流コストが上昇してしまうのではと心配です。
30	
31	
32	インボイス制度の対策
33	他者との共同配送などに対応できるよう改善を図っている。

34	人材を増やそうとしているが、業界全体として人出が足りていない状況なので、どのように対策をしたら良いのか、悩み中です。
35	

iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)

質問 1 小山市の景気の現状(水準)

			良い	やや良い	どちらとも いけない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回	2023年	1~6月	0.0	40.0	45.7	5.7	8.6	0.0	54.3
前回	2022年	7~12月	3.0	24.2	42.4	24.2	6.1	0.0	48.5
前々回	2022年	1~6月	5.3	10.5	52.6	18.4	13.2	0.0	44.1
第39回	2021年	7~12月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2
第38回	2021年	1~6月	0.0	8.7	19.6	60.9	10.9	0.0	31.5
第37回	2020年	7~12月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4
第36回	2020年	1~6月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
第35回	2019年	7~12月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
第34回	2019年	1~6月	2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5
第33回	2018年	7~12月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0.0	51.6
第32回	2018年	1~6月	0.0	31.6	55.3	10.5	0.0	2.6	55.4
第31回	2017年	7~12月	0.0	32.6	58.1	4.7	4.7	0.0	54.7
第30回	2017年	1~6月	0.0	17.0	59.6	19.1	4.3	0.0	47.3
第29回	2016年	7~12月	0.0	14.6	47.9	31.3	6.3	0.0	42.7
第28回	2016年	1~6月	0.0	9.3	64.8	20.4	5.6	0.0	44.5
第27回	2015年	7~12月	0.0	21.7	56.5	21.7	0.0	0.0	50.0
第26回	2015年	1~6月	0.0	22.4	49.0	20.4	8.2	0.0	46.4
第25回	2014年	7~12月	0.0	10.9	50.0	32.6	6.5	0.0	42.7
第24回	2014年	1~6月	2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第23回	2013年	7~12月	2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0.0	52.0
第22回	2013年	1~6月	0.0	18.5	48.1	31.5	1.9	0.0	45.8
第21回	2012年	7~12月	0.0	4.1	44.9	34.7	16.3	0.0	34.2
第20回	2012年	1~6月	0.0	14.6	29.2	43.7	12.5	0.0	36.7
第19回	2011年	7~12月	1.8	9.2	25.5	45.5	18.0	0.0	32.8
第18回	2011年	1~6月	0.0	1.9	15.4	50.0	30.8	1.9	22.0
第17回	2010年	7~12月	0.0	6.7	33.3	40.0	20.0	0.0	31.7
第16回	2010年	1~6月	0.0	10.4	27.1	39.6	22.9	0.0	31.3
第15回	2009年	7~12月	0.0	2.1	4.2	41.7	52.0	0.0	14.1
第14回	2009年	1~6月	0.0	1.8	1.8	38.6	57.8	0.0	11.9
第13回	2008年	7~12月	0.0	0.0	4.3	36.2	59.5	0.0	11.2
第12回	2008年	1~6月	0.0	2.2	13.3	66.7	17.8	0.0	25.0

第11回	2007年	7~12月	0.0	0.0	38.3	53.2	8.5	0.0	32.5
第10回	2007年	1~6月	0.0	23.1	45.2	27.9	3.8	0.0	46.9
第9回	2006年	7~12月	0.0	20.8	35.4	33.3	10.5	0.0	41.6
第8回	2006年	1~6月	0.0	25.5	53.2	14.9	6.4	0.0	49.5
第7回	2005年	7~12月	0.0	28.9	44.4	22.2	4.5	0.0	49.4
第6回	2005年	1~6月	0.0	14.6	29.3	51.0	5.1	0.0	38.4
第5回	2004年	7~12月	0.0	12.5	27.5	42.5	17.5	0.0	33.8
第4回	2004年	1~6月	0.0	16.7	38.1	33.3	11.9	0.0	39.9
第3回	2003年	7~12月	0.0	12.0	18.0	40.0	30.0	0.0	28.0
第2回	2003年	1~6月	1.6	0.0	16.4	44.3	37.7	0.0	20.9
初回	2002年	7~12月	0.0	1.2	7.4	37.0	54.4	0.0	13.9

質問 4 小山市の景気の先行き(来半期見通し)

見通し対象時期		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回	2023年 7~12月	2.9	42.9	37.1	11.4	5.7	0.0	56.4
前回	2023年 1~6月	0.0	21.2	48.5	27.3	3.0	0.0	47.0
前々回	2022年 7~12月	2.6	15.8	55.3	21.1	5.3	0.0	47.4
第39回	2022年 1~6月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2
第38回	2021年 7~12月	2.2	43.5	39.1	13.0	2.2	0.0	57.6
第37回	2021年 1~6月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1
第36回	2020年 7~12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
第35回	2020年 1~6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
第34回	2019年 7~12月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6
第33回	2019年 1~6月	0.0	31.1	57.8	11.1	0.0	0.0	55.0
第32回	2018年 7~12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0.0	0.0	52.0
第31回	2018年 1~6月	0.0	39.5	53.5	7.0	0.0	0.0	58.1
第30回	2017年 7~12月	0.0	19.1	63.8	14.9	2.1	0.0	50.0
第29回	2017年 1~6月	0.0	24.5	61.2	12.2	2.0	0.0	52.0
第28回	2016年 7~12月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0.0	44.5
第27回	2016年 1~6月	0.0	21.7	60.9	17.4	0.0	0.0	51.1
第26回	2015年 7~12月	0.0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第25回	2015年 1~6月	0.0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第24回	2014年 7~12月	0.0	24.0	46.0	26.0	4.0	0.0	47.5
第23回	2014年 1~6月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0.0	52.6
第22回	2013年 7~12月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0.0	56.5
第21回	2013年 1~6月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0.0	54.6
第20回	2012年 7~12月	0.0	20.8	43.8	27.1	8.3	0.0	44.3
第19回	2012年 1~6月	0.0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第18回	2011年 7~12月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0.0	44.7
第17回	2011年 1~6月	0.0	6.7	64.4	24.4	4.5	0.0	43.3
第16回	2010年 7~12月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第15回	2010年 1~6月	0.0	8.3	37.5	33.3	20.9	0.0	33.3
第14回	2009年 7~12月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第13回	2009年 1~6月	0.0	0.0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第12回	2008年 7~12月	0.0	2.2	13.3	68.9	15.6	0.0	25.5
第11回	2008年 1~6月	0.0	8.5	42.6	42.6	4.3	2.0	39.1
第10回	2007年 7~12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0.0	0.0	50.7
第9回	2007年 1~6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0.0	52.6

第8回	2006年 7~12月	0.0	31.9	51.1	17.0	0.0	0.0	53.7
第7回	2006年 1~6月	2.2	51.1	40.0	6.7	0.0	0.0	62.2
第6回	2005年 7~12月	0.0	17.1	48.8	26.8	7.3	0.0	43.9
第5回	2005年 1~6月	0.0	9.8	41.5	43.9	4.8	0.0	39.1
第4回	2004年 7~12月	0.0	33.3	50.0	11.1	5.6	0.0	52.8
第3回	2004年 1~6月	0.0	18.0	32.0	34.0	16.0	0.0	38.0
第2回	2003年 7~12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0.0	36.0
初回	2003年 1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 6 業界の小山市における売上（売上金額の増減）

			増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	2023年	1~6月	5.7	40.0	25.7	22.9	5.7	0.0	54.3
前回	2022年	7~12月	0.0	30.3	39.4	24.2	6.1	0.0	48.5
前々回	2022年	1~6月	7.9	15.8	39.5	28.9	5.3	2.6	48.0
第39回	2021年	7~12月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4
第38回	2021年	1~6月	0.0	23.9	37.0	30.4	8.7	0.0	44.0
第37回	2020年	7~12月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8
第36回	2020年	1~6月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
第35回	2019年	7~12月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
第34回	2019年	1~6月	4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8
第33回	2018年	7~12月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
第32回	2018年	1~6月	0.0	23.7	50.0	23.7	2.6	0.0	48.7
第31回	2017年	7~12月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0.0	51.2
第30回	2017年	1~6月	2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0.0	47.3
第29回	2016年	7~12月	0.0	10.2	59.2	28.6	2.0	0.0	45.4
第28回	2016年	1~6月	0.0	20.4	44.4	24.1	11.1	0.0	44.5
第27回	2015年	7~12月	0.0	23.9	50.0	21.7	4.3	0.0	49.4
第26回	2015年	1~6月	2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第25回	2014年	7~12月	2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第24回	2014年	1~6月	2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第23回	2013年	7~12月	8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0.0	53.6
第22回	2013年	1~6月	1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第21回	2012年	7~12月	0.0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第20回	2012年	1~6月	2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0.0	42.4
第19回	2011年	7~12月	7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第18回	2011年	1~6月	0.0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第17回	2010年	7~12月	4.4	20.0	42.2	24.4	9.0	0.0	46.6
第16回	2010年	1~6月	2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第15回	2009年	7~12月	2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0.0	29.8
第14回	2009年	1~6月	1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第13回	2008年	7~12月	0.0	0.0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第12回	2008年	1~6月	0.0	6.7	26.7	46.7	19.9	0.0	30.1
第11回	2007年	7~12月	0.0	6.4	40.4	40.4	12.8	0.0	35.1
第10回	2007年	1~6月	1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9
第9回	2006年	7~12月	4.2	18.8	41.7	25.0	8.2	2.1	46.4
第8回	2006年	1~6月	0.0	34.0	46.8	14.9	4.3	0.0	52.6

第7回	2005年	7~12月	2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回	2005年	1~6月	0.0	19.5	31.7	41.5	7.3	0.0	41.5
第5回	2004年	7~12月	2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0.0	38.8
第4回	2004年	1~6月	2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0.0	42.4
第3回	2003年	7~12月	4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回	2003年	1~6月	3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0.0	37.3
初回	2002年	7~12月	2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問 10 業界の小山市の売上高見通し(来半期の見通し)

見通し対象時期			増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	2023年	7~12月	0.0	42.9	42.9	8.6	5.7	0.0	55.7
前回	2023年	1~6月	0.0	27.3	48.5	21.2	3.0	0.0	50.0
前々回	2022年	7~12月	2.6	21.1	50.0	15.8	7.9	2.6	48.6
第39回	2022年	1~6月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1
第38回	2021年	7~12月	0.0	34.8	43.5	15.2	4.3	2.2	52.8
第37回	2021年	1~6月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4
第36回	2020年	7~12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
第35回	2020年	1~6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
第34回	2019年	7~12月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8
第33回	2019年	1~6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0.0	0.0	53.3
第32回	2018年	7~12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0.0	0.0	52.7
第31回	2018年	1~6月	0.0	30.2	53.5	14.0	2.3	0.0	52.9
第30回	2017年	7~12月	0.0	10.6	66.0	19.1	4.3	0.0	45.7
第29回	2017年	1~6月	0.0	18.4	61.2	18.4	2.0	0.0	49.0
第28回	2016年	7~12月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0.0	50.0
第27回	2016年	1~6月	0.0	17.4	50.0	28.3	2.2	0.0	45.1
第26回	2015年	7~12月	0.0	18.4	55.1	24.5	2.0	0.0	47.5
第25回	2015年	1~6月	0.0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第24回	2014年	7~12月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第23回	2014年	1~6月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0.0	48.4
第22回	2013年	7~12月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第21回	2013年	1~6月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第20回	2012年	7~12月	0.0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第19回	2012年	1~6月	0.0	18.2	50.9	23.6	7.3	0.0	45.0
第18回	2011年	7~12月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第17回	2011年	1~6月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0.0	49.5
第16回	2010年	7~12月	0.0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第15回	2010年	1~6月	0.0	10.4	39.6	31.3	18.7	0.0	35.4
第14回	2009年	7~12月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第13回	2009年	1~6月	0.0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第12回	2008年	7~12月	0.0	4.4	24.4	53.3	17.9	0.0	28.8
第11回	2008年	1~6月	0.0	10.6	44.7	38.3	6.4	0.0	39.9
第10回	2007年	7~12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0.0	3.8	53.5
第9回	2007年	1~6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2

第8回	2006年	7~12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6
第7回	2006年	1~6月	0.0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5
第6回	2005年	7~12月	0.0	22.0	51.2	26.8	0.0	0.0	48.8
第5回	2005年	1~6月	2.5	17.5	27.5	40.0	10.0	2.5	40.4
第4回	2004年	7~12月	0.0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0
第3回	2004年	1~6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回	2003年	7~12月	0.0	10.0	43.3	31.7	15.0	0.0	37.1
初回	2003年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 12 来半期の販売価格見通し

見通し対象時期			上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回	2023年	7~12月	2.9	45.7	45.7	5.7	0.0	0.0	61.4
前回	2023年	1~6月	6.1	30.3	51.5	12.1	0.0	0.0	57.6
前々回	2022年	7~12月	10.5	31.6	39.5	13.2	2.6	2.6	58.8
第39回	2022年	1~6月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2
第38回	2021年	7~12月	4.3	15.2	58.7	15.2	4.3	2.2	50.0
第37回	2021年	1~6月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6
第36回	2020年	7~12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
第35回	2020年	1~6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
第34回	2019年	7~12月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5
第33回	2019年	1~6月	0.0	13.3	71.1	13.3	13.3	0.0	48.9
第32回	2018年	7~12月	0.0	10.5	73.7	13.2	0.0	2.6	49.3
第31回	2018年	1~6月	0.0	18.6	69.8	11.6	0.0	0.0	51.8
第30回	2017年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回	2017年	1~6月	0.0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第28回	2016年	7~12月	0.0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第27回	2016年	1~6月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0.0	48.4
第26回	2015年	7~12月	0.0	18.4	65.3	14.3	0.0	2.0	51.0
第25回	2015年	1~6月	0.0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第24回	2014年	7~12月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第23回	2014年	1~6月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第22回	2013年	7~12月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第21回	2013年	1~6月	2.0	16.3	51.0	22.5	4.1	4.1	46.3
第20回	2012年	7~12月	0.0	10.4	47.9	35.4	6.3	0.0	40.6
第19回	2012年	1~6月	0.0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第18回	2011年	7~12月	0.0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第17回	2011年	1~6月	0.0	11.1	51.1	35.6	2.2	0.0	42.8
第16回	2010年	7~12月	0.0	12.5	54.2	31.3	2.0	0.0	44.3
第15回	2010年	1~6月	0.0	4.2	39.6	41.7	14.5	0.0	33.4
第14回	2009年	7~12月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第13回	2009年	1~6月	0.0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第12回	2008年	7~12月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第11回	2008年	1~6月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3
第10回	2007年	7~12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5
第9回	2007年	1~6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6

第8回	2006年	7~12月	0.0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0
第7回	2006年	1~6月	0.0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5
第6回	2005年	7~12月	0.0	14.6	48.8	29.3	0.0	7.3	46.0
第5回	2005年	1~6月	0.0	8.1	45.9	40.5	5.5	0.0	39.2
第4回	2004年	7~12月	0.0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5
第3回	2004年	1~6月	0.0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回	2003年	7~12月	0.0	8.6	32.8	48.3	10.3	0.0	34.9

(注) 販売価格見直しは第2回から実施

質問 13 来半期の雇用見通し

見通し対象時期			不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	DI
今年	2023年	7~12月	11.4	40.0	45.7	2.9	0.0	0.0	65.0
前回	2023年	1~6月	12.1	27.3	57.6	0.0	0.0	3.0	63.3
前々回	2022年	7~12月	7.9	18.4	65.8	2.6	0.0	5.3	58.3
第39回	2022年	1~6月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7
第38回	2021年	7~12月	2.2	15.2	67.4	8.7	2.2	4.3	51.7
第37回	2021年	1~6月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4
第36回	2020年	7~12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
第35回	2020年	1~6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
第34回	2019年	7~12月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3
第33回	2019年	1~6月	13.3	35.6	46.7	0.0	2.2	2.2	64.8
第32回	2018年	7~12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0.0	2.6	54.7
第31回	2018年	1~6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0.0	0.0	60.5
第30回	2017年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回	2017年	1~6月	10.6	34.0	53.2	2.1	0.0	0.0	65.7
第28回	2016年	7~12月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第27回	2016年	1~6月	0.0	26.2	64.3	7.1	2.4	0.0	53.6
第26回	2015年	7~12月	6.1	22.5	65.3	4.1	0.0	2.0	57.8
第25回	2015年	1~6月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0.0	62.3
第24回	2014年	7~12月	0.0	28.6	67.4	2.0	2.0	0.0	55.7
第23回	2014年	1~6月	2.0	26.5	59.2	8.2	0.0	4.1	55.8
第22回	2013年	7~12月	0.0	11.1	77.8	7.4	0.0	3.7	51.0
第21回	2013年	1~6月	0.0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第20回	2012年	7~12月	0.0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第19回	2012年	1~6月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第18回	2011年	7~12月	0.0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第17回	2011年	1~6月	0.0	6.7	64.4	26.7	2.2	0.0	43.9
第16回	2010年	7~12月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第15回	2010年	1~6月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第14回	2009年	7~12月	0.0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第13回	2009年	1~6月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第12回	2008年	7~12月	0.0	11.1	80.0	8.9	0.0	0.0	50.6
第11回	2008年	1~6月	2.1	17.0	70.2	6.4	0.0	4.3	53.9
第10回	2007年	7~12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0.0	3.9	58.4
第9回	2007年	1~6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0.0	8.4	58.5

第8回	2006年	7~12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7
第7回	2006年	1~6月	0.0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5
第6回	2005年	7~12月	0.0	22.0	61.0	9.8	0.0	7.2	53.3
第5回	2005年	1~6月	5.0	5.0	65.0	20.0	2.5	2.5	47.4
第4回	2004年	7~12月	0.0	16.7	72.2	8.3	2.8	0.0	50.7
第3回	2004年	1~6月	0.0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回	2003年	7~12月	0.0	8.8	57.9	28.1	5.2	0.0	42.6

(注) 雇用見通しは第2回から実施

質問 14 資金繰りの状況(前半期との比較)

			改善した	やや改善	どちらとも いえない	やや悪化	悪化した	無回答	DI
今回	2023年	1~6月	0.0	20.0	54.3	22.9	2.9	0.0	47.9
前回	2022年	7~12月	0.0	21.2	51.5	24.2	3.0	0.0	47.7
前々回	2022年	1~6月	5.3	10.5	50.0	23.7	10.5	0.0	44.1
第39回	2021年	7~12月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6
第38回	2021年	1~6月	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	0.0	48.9
第37回	2020年	7~12月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3
第36回	2020年	1~6月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
第35回	2019年	7~12月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
第34回	2019年	1~6月	6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2
第33回	2018年	7~12月	2.2	24.4	62.2	11.1	0.0	0.0	54.4
第32回	2018年	1~6月	2.6	15.8	68.4	10.5	0.0	2.6	52.6
第31回	2017年	7~12月	4.7	14.0	62.8	18.6	0.0	0.0	51.3
第30回	2017年	1~6月	4.3	17.0	70.2	8.5	0.0	0.0	54.3
第29回	2016年	7~12月	2.1	17.0	68.1	12.8	0.0	0.0	53.1
第28回	2016年	1~6月	7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第27回	2015年	7~12月	4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第26回	2015年	1~6月	2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第25回	2014年	7~12月	2.1	10.4	64.6	20.8	0.0	2.1	48.4
第24回	2014年	1~6月	4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0.0	51.5
第23回	2013年	7~12月	4.1	16.3	59.2	18.4	0.0	2.0	51.6
第22回	2013年	1~6月	3.7	22.2	51.9	18.5	0.0	3.7	52.9
第21回	2012年	7~12月	6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第20回	2012年	1~6月	2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第19回	2011年	7~12月	9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第18回	2011年	1~6月	0.0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第17回	2010年	7~12月	0.0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第16回	2010年	1~6月	4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0.0	44.3
第15回	2009年	7~12月	2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0.0	40.7
第14回	2009年	1~6月	3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第13回	2008年	7~12月	2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0.0	37.8
第12回	2008年	1~6月	0.0	13.3	48.9	35.6	2.2	0.0	0.0
第11回	2007年	7~12月	4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8
第10回	2007年	1~6月	3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9
第9回	2006年	7~12月	6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2

第 8 回	2006 年	1~6 月	0.0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2
-------	--------	-------	-----	------	------	------	-----	-----	------

(注) 資金繰りの状況は第 8 回から実施